Ⅰ. 次のカタカナを漢字になおしなさい。

一. 単調な話にアきた。（　　）
二. アイセキの情あふれる手紙。（　　）
三. アイセキの念に堪えない。（　　）
四. 心からアイトウの意を表す。（　　）
五. 夜空をアオぎ見る。（　　）
六. アカツキの空を仰ぐ。（　　）
七. 固いアクシュを交わす。（　　）
八. 便所のアクシュウを消す。（　　）
九. アクタイをつく。（　　）
一〇. アシナみをそろえる。（　　）
一一. 銀行に金をアズける。（　　）
一二. アットウ的な勝利を収める。（　　）
一三. この家はアマモりがする。（　　）
一四. 漢字の書きアヤマり。（　　）
一五. アンイに妥協したくない。（　　）
一六. 船がアンショウに乗り上げる。（　　）
一七. 国家のアンタイを願う。（　　）
一八. 友人間のアンモクの了解。（　　）
一九. イアン旅行に行く。（　　）
二〇. 大声でイカクした。（　　）
二一. 先人のイギョウを偲ぶ。（　　）
二二. イゲンのある態度。（　　）
二三. イシャ料を請求する。（　　）
二四. 権限をイジョウする。（　　）
二五. 明治イシンは日本の夜明け。（　　）
二六. イジンの伝記を読む。（　　）
二七. イゼン行方不明のままだ。（　　）
二八. イソガしく立ち働く。（　　）
二九. イチョウの具合が悪い。（　　）
三〇. 門下からイツザイが輩出する。（　　）
三一. 船はイッシュンにして没した。（　　）
三二. 満場イッチで可決する。（　　）
三三. 暗い空にイナズマが走った。（　　）
三四. イナホが風になびく。（　　）
三五. イホウ行為を取り締まる。（　　）
三六. 親のイマシめを守る。（　　）
三七. 戦災孤児をイモンする。（　　）
三八. イヨウを誇る美術館だ。（　　）
三九. 仕事のイライを受ける。（　　）
四〇. 家督を譲ってインキョした。（　　）

（　　）飽
（　　）愛惜
（　　）哀惜
（　　）哀悼
（　　）仰
（　　）暁
（　　）握手
（　　）悪臭
（　　）悪態
（　　）足並
（　　）預
（　　）圧倒
（　　）雨漏
（　　）誤
（　　）安易
（　　）暗礁
（　　）安泰
（　　）暗黙
（　　）慰安
（　　）威嚇
（　　）偉業
（　　）威厳
（　　）慰謝
（　　）委譲
（　　）維新
（　　）偉人
（　　）依然
（　　）忙
（　　）胃腸
（　　）逸材
（　　）一瞬
（　　）一致
（　　）稲妻
（　　）稲穂
（　　）違法
（　　）戒
（　　）慰問
（　　）威容
（　　）依頼
（　　）隠居

四一. 原稿をインサツする。（　　）印刷
四二. 先生がインソツする。（　　）引率
四三. 物質をイントクする。（　　）隠匿
四四. 切っても切れないインネン。（　　）因縁
四五. 大工仕事をウけ負う。（　　）請
四六. ウキワがないと泳げない。（　　）浮輪
四七. 今日はウスグモりの空だ。（　　）薄曇
四八. ウツワの大きい人だ。（　　）器
四九. ウデ組みをして考える。（　　）腕
五〇. 反省をウナガす。（　　）促
五一. 心理のウラガワを読みとる。（　　）裏側
五二. 見つめるウルワしい少女。（　　）麗
五三. 明日をウレえる。（　　）憂
五四. 電車のウンチンが変わる。（　　）運賃
五五. 荷物をウンパンする。（　　）運搬
五六. 天候のエイキョウを受ける。（　　）影響
五七. エイコ盛衰の夢のあと。（　　）栄枯
五八. 外国にエイジュウする。（　　）永住
五九. エイゾウがさらに鮮明になる。（　　）映像
六〇. エイビンな頭脳を働かせる。（　　）鋭敏
六一. 彼はエイユウとたたえられた。（　　）英雄
六二. 軽くエシャクする。（　　）会釈
六三. エツラン室で図書を読む。（　　）閲覧
六四. 狩でエモノを捕る。（　　）獲物
六五. 政党のエラい指導者に会う。（　　）偉
六六. 人間関係のエンカツを図る。（　　）円滑
六七. 体育祭がエンキになる。（　　）延期
六八. エンコを頼って就職する。（　　）縁故
六九. 資金のエンジョを受ける。（　　）援助
七〇. エンピツを削る。（　　）鉛筆
七一. エンリョなく発言する。（　　）遠慮
七二. 対抗試合のオウエンに行く。（　　）応援
七三. 証拠品をオウシュウする。（　　）押収
七四. やじのオウシュウとなる。（　　）応酬
七五. 顔面をオウダする。（　　）殴打
七六. 会場の係員がオウタイする。（　　）応対
七七. ついオウチャクする。（　　）横着
七八. 彼らのオウボウは許し難い。（　　）横暴
七九. オオせの通りに致します。（　　）仰
八〇. 記念の品をオクる。（　　）贈

八一．オクバが痛み始めた。（　　）奥歯
八二．村に産業がオコる。（　　）興
八三．復習をオコタる。（　　）怠
八四．オソザきの桜が花を付けた。（　　）遅咲
八五．笛吹けどオドらず。（　　）踊
八六．台風の勢力がオトロえる。（　　）衰
八七．風の音にオドロかされる。（　　）驚
八八．期待は彼女のオモニになった。（　　）重荷
八九．被害は広範囲にオヨんだ。（　　）及
九〇．自然のオンケイに浴する。（　　）恩恵
九一．オンケン思想の持ち主。（　　）穏健
九二．彼はオンジュンな人柄だった。（　　）温順
九三．賞金をカける。（　　）懸
九四．一人で二役をカねる。（　　）兼
九五．船でカイキョウをわたった。（　　）海峡
九六．荒れ地をカイコンする。（　　）開墾
九七．駅のカイサツを通る。（　　）改札
九八．費用をガイサンする。（　　）概算
九九．財閥がカイタイされた。（　　）解体
一〇〇．ガイタンに堪えない世相。（　　）慨嘆
一〇一．教科書をカイテイする。（　　）改訂
一〇二．他人の争いにカイニュウする。（　　）介入
一〇三．魚のカイボウ実験。（　　）解剖
一〇四．カイリツが厳しい。（　　）戒律
一〇五．文学ガイロンを読む。（　　）概論
一〇六．日章旗をカカげる。（　　）掲
一〇七．物語はカキョウに入った。（　　）佳境
一〇八．これはカクウの話だ。（　　）架空
一〇九．核のカクサンを防止する。（　　）拡散
一一〇．カクシキのある家柄。（　　）格式
一一一．政党間のカクシツは根深い。（　　）確執
一一二．これが正しいとカクシンする。（　　）確信
一一三．事件のカクシンをつく。（　　）核心
一一四．建物のカクチョウ工事をする。（　　）拡張
一一五．賞金をカクトクした。（　　）獲得
一一六．ガクフを見て歌う。（　　）楽譜
一一七．患者をカクリする。（　　）隔離
一一八．選外カサクの小説。（　　）佳作
一一九．自意識がカジョウだ。（　　）過剰
一二〇．鼻カゼをひく。（　　）風邪

一二一．野球の守備がカタい。（　）（堅）
一二二．想像するにカタくない。（　）（難）
一二三．両者の利益にガッチする契約だ。（　）（合致）
一二四．高僧は赤ら顔でカッパした。（　）（喝破）
一二五．高校のカテイを終えた。（　）（課程）
一二六．時代はカト期だった。（　）（過渡）
一二七．カヘイ価値が変動する。（　）（貨幣）
一二八．ガマンするにも限度がある。（　）（我慢）
一二九．彼はカモクな人間だ。（　）（寡黙）
一三〇．ガロウで絵を買う。（　）（画廊）
一三一．のどのカワきをいやす。（　）（渇）
一三二．代金を郵便カワセで送る。（　）（為替）
一三三．軍隊のカンエツ式を行う。（　）（観閲）
一三四．カンガイ無量の人生だ。（　）（感慨）
一三五．この仕事は警察のカンカツだ。（　）（管轄）
一三六．誠にカンガンの至りです。（　）（汗顔）
一三七．カンキョウ汚染が進む。（　）（環境）
一三八．新入生のカンゲイ会。（　）（歓迎）
一三九．利益を消費者にカンゲンする。（　）（還元）
一四〇．行動をカンシされる。（　）（監視）
一四一．同窓会のカンジを引き受けた。（　）（幹事）
一四二．カンジャクな山寺を訪ねる。（　）（閑寂）
一四三．障害を越えてカンスイした。（　）（完遂）
一四四．病原菌にカンセンした。（　）（感染）
一四五．盆地はカンダンの差が激しい。（　）（寒暖）
一四六．遠くの地震もカンチできる。（　）（感知）
一四七．一切カンチしないつもりだ。（　）（関知）
一四八．ガンチクのある言葉だ。（　）（含蓄）
一四九．宝石をカンテイする。（　）（鑑定）
一五〇．初志をカンテツする。（　）（貫徹）
一五一．こればかりはカンニンできぬ。（　）（堪忍）
一五二．勝利にカンパイする。（　）（乾杯）
一五三．彼女は店のカンバン娘だ。（　）（看板）
一五四．カンベンしてもらいたい。（　）（勘弁）
一五五．地盤がカンボツした。（　）（陥没）
一五六．カンマンな動作で作業する。（　）（緩慢）
一五七．証人カンモンを受ける。（　）（喚問）
一五八．保険のカンユウに歩く。（　）（勧誘）
一五九．鉄分をガンユウする。（　）（含有）
一六〇．カンヨウ植物を飾る。（　）（観葉）

一六一．実にカンリョウ的な態度だ。（官僚）
一六二．優勝者がカンルイにむせぶ。（感涙）
一六三．カンレイにならう。（慣例）
一六四．公定歩合がカンワされた。（緩和）
一六五．丁寧な口のキき方をする。（利）
一六六．仏にキエする。（帰依）
一六七．新進キエイの評論家。（気鋭）
一六八．キオクが定かでない。（記憶）
一六九．キカ学を勉強する。（幾何）
一七〇．キガ状態に陥る。（飢餓）
一七一．実にキカイな事件だった。（奇怪）
一七二．キカク会議に出席する。（企画）
一七三．同人誌にギキョクを載せる。（戯曲）
一七四．天候回復のキザしがある。（兆）
一七五．キジョウの空論はよせ。（机上）
一七六．キセキ的に助かった。（奇跡）
一七七．キソウ天外な計画だ。（奇想）
一七八．キツエン室で煙草を吸う。（喫煙）
一七九．キッサ店で本を読む。（喫茶）
一八〇．キッスイの江戸っ子だ。（生粋）
一八一．合格のキッポウを受け取る。（吉報）
一八二．厳しくキツモンした。（詰問）
一八三．月へ行くキドウに乗る。（軌道）
一八四．珍しくキトクな方だ。（奇特）
一八五．人心と世相のキビをつかみとる。（機微）
一八六．キボの大きい工事だ。（規模）
一八七．実にキミョウな出来事だった。（奇妙）
一八八．自分のギムを果たす。（義務）
一八九．キモのすわった人だ。（肝）
一九〇．事故の原因にギモンが残る。（疑問）
一九一．動物をギャクタイするな。（虐待）
一九二．夏期キュウカをとる。（休暇）
一九三．キュウキュウ車を呼ぶ。（救急）
一九四．一時間だけキュウケイする。（休憩）
一九五．選手の負傷でキュウチに陥る。（窮地）
一九六．生活がキュウハクする。（窮迫）
一九七．真相のキュウメイ。（究明）
一九八．発展にキヨする。（寄与）
一九九．作家のキョウグウを調べる。（境遇）
二〇〇．液体がギョウコした。（凝固）

二〇一、一点をギョウシする。（凝視）
二〇二、恐ろしいギョウソウでにらんだ。（形相）
二〇三、びっくりギョウテンする。（仰天）
二〇四、暗闇にキョウフ心がつのる。（恐怖）
二〇五、キョウミも失せた。（興味）
二〇六、人生をキョウラクする。（享楽）
二〇七、キョガクの収入がある。（巨額）
二〇八、キョクタンに嫌う。（極端）
二〇九、美のキョクチに達する。（極致）
二一〇、現代絵画のキョショウ。（巨匠）
二一一、キョセイを張る。（虚勢）
二一二、敵のキョテンを占領した。（拠点）
二一三、キョドウ不審な男だ。（挙動）
二一四、キリに霞む波止場。（霧）
二一五、キリツを保とう。（規律）
二一六、人生のキロに立たされる。（岐路）
二一七、キロク的な寒さだ。（記録）
二一八、キンシン処分を受ける。（謹慎）
二一九、キンセイのとれた身体。（均整）
二二〇、東西のキンチョウ緩和。（緊張）
二二一、国際関係がキンパクする。（緊迫）
二二二、彼はキンベンな学生だ。（勤勉）
二二三、内容をギンミする。（吟味）
二二四、キンミツな連絡をとる。（緊密）
二二五、練習をクり返す。（繰）
二二六、失言をクいる。（悔）
二二七、グウゾウ崇拝の宗教。（偶像）
二二八、クウランを埋める（空欄）
二二九、彼はクジュウの表情を見せた。（苦渋）
二三〇、害虫をクジョする。（駆除）
二三一、岩がクダけ散った。（砕）
二三二、グチをこぼす。（愚痴）
二三三、クチキは柱にならない。（朽木）
二三四、演説のクチョウで話す。（口調）
二三五、光がクッセツする。（屈折）
二三六、権力にクップクしない。（屈服）
二三七、他人にクドクを施す。（功徳）
二三八、クヤし涙が流れる。（悔）
二三九、祖先をクヨウする。（供養）
二四〇、クワしい解説付きの問題集。（詳）

二四一．事のケイイを調べる。（経緯）
二四二．ケイソツな行動をとる。（軽率）
二四三．神社のケイダイに鳩が群れる。（境内）
二四四．夜の街にケイテキが響く。（警笛）
二四五．ケイハクな言葉をはく。（軽薄）
二四六．ケイバツに処せられた。（刑罰）
二四七．日本文学のケイフを調べる。（系譜）
二四八．彼の努力にケイフクする。（敬服）
二四九．先輩をケイボする。（敬慕）
二五〇．国旗をケイヨウする。（掲揚）
二五一．よいケイヨウ詞が思い当たらない。（形容）
二五二．まんまとケイリャクに陥る。（計略）
二五三．ケガの功名で案外うまくいった。（怪我）
二五四．伝統をケガすな。（汚）
二五五．選手たちをゲキレイする。（激励）
二五六．念入りにケショウする。（化粧）
二五七．鉛筆をケズる。（削）
二五八．ケッサクな映画ができた。（傑作）
二五九．ケッタクして悪事を犯す。（結託）
二六〇．金銭面ではケッペキな人だ。（潔癖）
二六一．ゲネツ剤を服用した。（解熱）
二六二．米の減収がケネンされる。（懸念）
二六三．人のいるケハイを感じる。（気配）
二六四．ケモノ道が細く続く。（獣）
二六五．彼はケンイある医者だ。（権威）
二六六．ゲンカクな教育を受ける。（厳格）
二六七．そこまではゲンキュウしない。（言及）
二六八．ケンキョな態度。（謙虚）
二六九．雑誌のゲンコウを書く。（原稿）
二七〇．兄としての自覚をケンジする。（堅持）
二七一．自己ケンジ欲の強い人だ。（顕示）
二七二．ゲンジュウに注意された。（厳重）
二七三．ゲンシュクに儀式を執り行う。（厳粛）
二七四．ケンジョウの美徳を重んじる。（謙譲）
二七五．ケンシン的な看病をする。（献身）
二七六．病院でケンシンを受ける。（検診）
二七七．水道のケンシンをする。（検針）
二七八．楽器でゲンソウ即興曲を弾く。（幻想）
二七九．ケンチョな功績を修めた。（顕著）
二八〇．前向きの姿勢でケントウする。（検討）

二八一．合格ケンナイに入る。（　　）（圏内）
二八二．ゲンバツに処せられる。（　　）（厳罰）
二八三．ケンビ鏡で観察する。（　　）（顕微）
二八四．ケンメイな方法だ。（　　）（賢明）
二八五．ケンメイに力走する。（　　）（懸命）
二八六．ゲンメツの悲哀を感じる。（　　）（幻滅）
二八七．一ケンヤに住む。（　　）（軒家）
二八八．ケンヤクして金を使う。（　　）（倹約）
二八九．朝昼ケンヨウの食事。（　　）（兼用）
二九〇．コイする心に上下の隔てなし。（　　）（恋）
二九一．コウカイ先に立たず。（　　）（後悔）
二九二．野球のコウカン試合。（　　）（交歓）
二九三．相手国にコウギする。（　　）（抗議）
二九四．国民はコウキュウ平和を願う。（　　）（恒久）
二九五．社会福祉にコウケンする。（　　）（貢献）
二九六．コウコの憂いなし。（　　）（後顧）
二九七．満点を取るとゴウゴした。（　　）（豪語）
二九八．コウゴウ陛下に謁見する。（　　）（皇后）
二九九．期待と不安がコウサクする。（　　）（交錯）
三〇〇．実験結果にコウサツを加える。（　　）（考察）
三〇一．コウサンの白旗を振る。（　　）（降参）
三〇二．税金をコウジョされる。（　　）（控除）
三〇三．改心してコウセイを誓う。（　　）（更生）
三〇四．偉大なコウセキを残す。（　　）（功績）
三〇五．コウセツは問題ではない。（　　）（巧拙）
三〇六．高等裁判所にコウソする。（　　）（控訴）
三〇七．内部のコウゾウを調べる。（　　）（構造）
三〇八．掃除の当番をコウタイしたい。（　　）（交代）
三〇九．売上金をゴウダツされた。（　　）（強奪）
三一〇．頬がコウチョウする。（　　）（紅潮）
三一一．彼の説をコウテイする。（　　）（肯定）
三一二．古代中国の秦の始コウテイ。（　　）（皇帝）
三一三．郊外にゴウテイを建てた。（　　）（豪邸）
三一四．大臣のコウテツが行われた。（　　）（更迭）
三一五．物価がコウトウする。（　　）（高騰）
三一六．生徒がコウドウに集まる。（　　）（講堂）
三一七．いまだコウフンさめやらず。（　　）（興奮）
三一八．市役所のコウホウ課に勤める。（　　）（広報）
三一九．国家のコウボウにかかわる。（　　）（興亡）
三二〇．コウミョウな罠にはまる。（　　）（巧妙）

二二一. 台風の災害をコウムる。（　）
二二二. 予算もコウリョに入れる。（　）
二二三. コウレイの行事が行われる。（　）
二二四. 文化コウロウ賞を授与した。（　）
二二五. ゴカイが解ける。（　）
二二六. 資源がコカツする。（　）
二二七. コクサイが売り出される。（　）
二二八. 彼はゴクチュウで死んだ。（　）
二二九. 困難をコクフクする。（　）
二三〇. ゴコクの豊じょうを祈る。（　）
二三一. 中国在住の日本人コジ。（　）
二三二. 勢力をコジする。（　）
二三三. 自説にコシツする。（　）
二三四. 車がコショウする。（　）
二三五. コセキ調査を実施する。（　）
二三六. コッキ心を持て。（　）
二三七. 心臓のコドウが高鳴る。（　）
二三八. コドクな人生。（　）
二三九. 面会をコバむ。（　）
二四〇. ゴフク屋を営む。（　）
二四一. 言葉にゴヘイがある。（　）
二四二. 爆発でコマクが破れた。（　）
二四三. 卓球部のコモンになる。（　）
二四四. 毎朝コヨミをめくる。（　）
二四五. ゴラク番組が敬遠される。（　）
二四六. コン色の制服を着る。（　）
二四七. 彼女とはコンイな間柄だ。（　）
二四八. コンイン届けを提出する。（　）
二四九. 鮮やかなコンジョウの海。（　）
二五〇. 夕食のコンダテを考える。（　）
二五一. 君のコンタンは見え透いている。（　）
二五二. コンダン会に出席する。（　）
二五三. 絹と綿をコンボウした糸。（　）
二五四. 新しい寺がコンリュウされた。（　）
二五五. コンレイの儀を執り行う。（　）
二五六. 思いがけないサイカにあう。（　）
二五七. 石炭をサイクツする。（　）
二五八. はかないサイゴを遂げた。（　）
二五九. 支払いのサイソク状が届く。（　）
二六〇. サイダイ漏らさず報告したまえ。（　）

（　）被
（　）考慮
（　）恒例
（　）功労
（　）誤解
（　）枯渇
（　）国債
（　）獄中
（　）克服
（　）五穀
（　）孤児
（　）誇示
（　）固執
（　）故障
（　）戸籍
（　）克己
（　）鼓動
（　）孤独
（　）拒
（　）呉服
（　）語弊
（　）鼓膜
（　）顧問
（　）暦
（　）娯楽
（　）紺
（　）懇意
（　）婚姻
（　）紺青
（　）献立
（　）魂胆
（　）懇談
（　）混紡
（　）建立
（　）婚礼
（　）災禍
（　）採掘
（　）最期
（　）催促
（　）細大

三六一．布をサイダンする。（裁断）
三六二．試験のサイテンをする。（採点）
三六三．茶をサイバイする。（栽培）
三六四．家庭科でサイホウを習う。（裁縫）
三六五．サイマツの助け合い運動。（歳末）
三六六．川の流れにサカらう。（逆）
三六七．サカズキを交わす。（杯）
三六八．宇宙の神秘をサグる。（探）
三六九．サクイが明らかな犯罪。（作為）
三七〇．巻末のサクインを見る。（索引）
三七一．時代サクゴな考え。（錯誤）
三七二．無駄な文章をサクジョする。（削除）
三七三．客をザシキにあげる。（座敷）
三七四．船がザショウした。（座礁）
三七五．優勝杯をサズける。（授）
三七六．地方へサセンされる。（左遷）
三七七．大体のサッしはつく。（察）
三七八．記念写真をサツエイする。（撮影）
三七九．サッカクをおこした。（錯覚）
三八〇．包帯をサッキン消毒する。（殺菌）
三八一．ザットウに紛れる。（雑踏）
三八二．紅茶にサトウを入れる。（砂糖）
三八三．サナエを植える。（早苗）
三八四．サムライの切り捨てごめん。（侍）
三八五．薬はサユで飲むのが良い。（白湯）
三八六．努力をサラに続ける。（更）
三八七．胸サワぎがする。（騒）
三八八．ザンギャクな行為にでる。（残虐）
三八九．ザンコクな処置。（残酷）
三九〇．計画はザンジ中止する。（暫時）
三九一．仕事がサンセキする。（山積）
三九二．ザンテイ予算を組む。（暫定）
三九三．軍備強化のサンピを問う。（賛否）
三九四．羊をシイクする。（飼育）
三九五．他人に甘える姿勢をジカイする。（自戒）
三九六．軍部がシキ権を握る。（指揮）
三九七．ジギに適した挨拶。（時宜）
三九八．犯行をジキョウした。（自供）
三九九．シギンを習い始めた。（詩吟）
四〇〇．シグレがしとしと降る。（時雨）

四〇一．神経をシゲキする音。（　）（刺激）
四〇二．シサに富む見解だ。（　）（示唆）
四〇三．ジシャク盤で方角を調べる。（　）（磁石）
四〇四．シショウと弟子。（　）（師匠）
四〇五．大きなジシンが起きた。（　）（地震）
四〇六．シセイ方針演説が放送される。（　）（施政）
四〇七．シセイを正して机に向かう。（　）（姿勢）
四〇八．ジセイの念にかられる。（　）（自省）
四〇九．恩師をシタう。（　）（慕）
四一〇．受賞をジタイした。（　）（辞退）
四一一．文芸シチョウの動向。（　）（思潮）
四一二．胸部シッカンで休学する。（　）（疾患）
四一三．シッキ類の手入れをする。（　）（漆器）
四一四．ジッキョウ放送を聞く。（　）（実況）
四一五．梅雨どきはシッケが多い。（　）（湿気）
四一六．道徳をジッセンする。（　）（実践）
四一七．原稿をシッピツする。（　）（執筆）
四一八．字の誤りをシテキする。（　）（指摘）
四一九．成功させるのはシナンの業だ。（　）（至難）
四二〇．不自由をシノんで生活する。（　）（忍）
四二一．彼がこの道場のシハンだ。（　）（師範）
四二二．銀行員がシヘイを数える。（　）（紙幣）
四二三．洗濯物をシボる。（　）（絞）
四二四．牛の乳をシボる。（　）（搾）
四二五．シボの情が募る。（　）（思慕）
四二六．涙で声もシメる。（　）（湿）
四二七．硝子にシモンが付く。（　）（指紋）
四二八．どうもシャクゼンとしない。（　）（釈然）
四二九．微罪でシャクホウされる。（　）（釈放）
四三〇．シャクメイさせてほしい。（　）（釈明）
四三一．ジャシンが起きる。（　）（邪心）
四三二．ジャドウな考えが浮かぶ。（　）（邪道）
四三三．器具のシャフツ消毒。（　）（煮沸）
四三四．音楽が勉強のジャマになる。（　）（邪魔）
四三五．シャヨウに映える山肌。（　）（斜陽）
四三六．シュに交われば赤くなる。（　）（朱）
四三七．決勝戦でシユウを決する。（　）（雌雄）
四三八．ジュウオウ無尽に活動した。（　）（縦横）
四三九．シュウギ院議員の選挙がある。（　）（衆議）
四四〇．衣服をシュウゼンする。（　）（修繕）

四四一．これはシュウチの事実だ。（周知）
四四二．シュウトウ綿密な計画を練る。（周到）
四四三．シュウトク物を届ける。（拾得）
四四四．技術をシュウトクする。（修得）
四四五．シュウネン深くつけまわす。（執念）
四四六．シュウワイ事件が発覚する。（収賄）
四四七．シュエンを張って祝う。（酒宴）
四四八．武者シュギョウの旅に出る。（修行）
四四九．花嫁シュギョウに励む。（修業）
四五〇．車の運転にジュクタツする。（熟達）
四五一．ジュクレンした職人だ。（熟練）
四五二．シュクン打を放つ。（殊勲）
四五三．シュコウを凝らす。（趣向）
四五四．話のシュシを正確に把握する。（主旨）
四五五．シュシャ選択して決める。（取捨）
四五六．もっと良いシュダンはないか。（手段）
四五七．無実をシュチョウする。（主張）
四五八．シュビ良く合格できた。（首尾）
四五九．園芸のシュミをもつ。（趣味）
四六〇．年輪でジュレイを調べる。（樹齢）
四六一．雨天のためジュンエンになった。（順延）
四六二．血液のジュンカンを促す。（循環）
四六三．規則をジュンシュする。（遵守）
四六四．開店のジュンビをする。（準備）
四六五．シヨウ末節にとらわれるな。（枝葉）
四六六．部下をショウアクする。（掌握）
四六七．自己ショウカイする。（紹介）
四六八．不明な点をショウカイする。（照会）
四六九．本国へショウカンされた。（召還）
四七〇．ショウギを指す。（将棋）
四七一．ジョウキを逸する言動。（常軌）
四七二．杓子ジョウギなやり方だ。（定規）
四七三．ショウゲキ的な事件。（衝撃）
四七四．ショウコ書類を押収する。（証拠）
四七五．ショウサイな報告を受ける。（詳細）
四七六．ジョウザイの薬を飲む。（錠剤）
四七七．長い間の念願がジョウジュする。（成就）
四七八．ショウジン料理を食べる。（精進）
四七九．ショウソウの念にかられる。（焦燥）
四八〇．母のショウゾウ画をかける。（肖像）

四八一．友人を食事にショウタイする。（　　）
四八二．先生のショウダクを得る。（　　）
四八三．彼はジョウダンがうまい。（　　）
四八四．ジョウチョの安定を欠く。（　　）
四八五．失恋に意気ショウチンする。（　　）
四八六．車が木にショウトツした。（　　）
四八七．会長のショウニンが必要だ。（　　）
四八八．水分がジョウハツする。（　　）
四八九．正真ショウメイの本物だ。（　　）
四九〇．自然にショウメツした。（　　）
四九一．体力がショウモウする。（　　）
四九二．ショクセキを全うする。（　　）
四九三．時間講師をショクタクする。（　　）
四九四．ショクリョウが欠乏する。（　　）
四九五．美しいジョケイ詩を作る。（　　）
四九六．ショハンの事情を考慮した計画。（　　）
四九七．書類にショメイする。（　　）
四九八．茶をショモウする。（　　）
四九九．家畜にシリョウを与える。（　　）
五〇〇．なにかシンエンな意味がある。（　　）
五〇一．シンクの大優勝旗。（　　）
五〇二．シンケンな口調で語る。（　　）
五〇三．シンコウ心が篤い。（　　）
五〇四．シンコクな悩みがある。（　　）
五〇五．入院患者をシンサツする。（　　）
五〇六．世のシンサンをなめて生きる。（　　）
五〇七．かれはジンジョウな男ではない。（　　）
五〇八．シンショクを共にする。（　　）
五〇九．欧米文化にシンスイする。（　　）
五一〇．シンセンな空気を吸う。（　　）
五一一．ジンソクに処理を終える。（　　）
五一二．激しい運動でジンタイを切る。（　　）
五一三．シンチョウに判断する。（　　）
五一四．意味シンチョウな言葉。（　　）
五一五．欧米文化がシントウした。（　　）
五一六．宇宙のシンピに魅せられる。（　　）
五一七．一日もシンボウできない。（　　）
五一八．警官に不審ジンモンを受ける。（　　）
五一九．生徒のシンライが厚い。（　　）
五二〇．村の発展にジンリョクする。（　　）

（　　）招待
（　　）承諾
（　　）冗談
（　　）情緒
（　　）消沈
（　　）衝突
（　　）承認
（　　）蒸発
（　　）正銘
（　　）消滅
（　　）消耗
（　　）職責
（　　）嘱託
（　　）食糧
（　　）叙景
（　　）諸般
（　　）署名
（　　）所望
（　　）飼料
（　　）深遠
（　　）真紅
（　　）真剣
（　　）信仰
（　　）深刻
（　　）診察
（　　）辛酸
（　　）尋常
（　　）寝食
（　　）心酔
（　　）新鮮
（　　）迅速
（　　）靭帯
（　　）慎重
（　　）深長
（　　）浸透
（　　）神秘
（　　）辛抱
（　　）尋問
（　　）信頼
（　　）尽力

五二一．船は西にシンロをとった。（　　）（進路）
五二二．スいも甘いもかみわけた。（　　）（酸）
五二三．スみきった秋の空。（　　）（澄）
五二四．二色ズりの参考書。（　　）（刷）
五二五．事態のスイイを見守る。（　　）（推移）
五二六．任務をスイコウする。（　　）（遂行）
五二七．神経スイジャクになる。（　　）（衰弱）
五二八．級長にスイセンされる。（　　）（推薦）
五二九．行進曲をスイソウする。（　　）（吹奏）
五三〇．徒然草はズイヒツである。（　　）（随筆）
五三一．十分なスイミン時間をとる。（　　）（睡眠）
五三二．スウコウな精神の持ち主。（　　）（崇高）
五三三．スクいようのない人だ。（　　）（救）
五三四．スミやかに避難せよ。（　　）（速）
五三五．スミエのような景色。（　　）（墨絵）
五三六．観察眼がスルドい。（　　）（鋭）
五三七．スンカを惜しむ。（　　）（寸暇）
五三八．年のセが押し迫る。（　　）（瀬）
五三九．セイイをもって事にあたれ。（　　）（誠意）
五四〇．代金のセイキュウをする。（　　）（請求）
五四一．セイケツな感じの青年だ。（　　）（清潔）
五四二．セイコン尽き果てた。（　　）（精根）
五四三．セイコン込めた作品だ。（　　）（精魂）
五四四．夜のセイジャクを破る。（　　）（静寂）
五四五．セイシュクに願います。（　　）（静粛）
五四六．セイジョウな空気を吸う。（　　）（清浄）
五四七．教室をセイソウをする。（　　）（清掃）
五四八．野生の狼がセイソクする島。（　　）（生息）
五四九．セイテン白日の身。（　　）（青天）
五五〇．セイヒンに甘んじる。（　　）（清貧）
五五一．おセイボに商品券を贈る。（　　）（歳暮）
五五二．セキジツの面影はない。（　　）（昔日）
五五三．自分でセキニンをとる。（　　）（責任）
五五四．一点差でセキハイする。（　　）（惜敗）
五五五．セキベツの情がこみ上げる。（　　）（惜別）
五五六．思わずゼックした。（　　）（絶句）
五五七．予算をセツゲンする。（　　）（節減）
五五八．ゼッサンを博した映画。（　　）（絶賛）
五五九．栄養分をセッシュする。（　　）（摂取）

五六一．天然痘の予防セッシュ。（　　）接種
五六二．予算のセッショウをする。（　　）折衝
五六三．むごいセッショウはやめよ。（　　）殺生
五六四．次の試合でセツジョクを果たす。（　　）雪辱
五六五．客をセッタイする。（　　）接待
五六六．和洋をセッチュウした文化。（　　）折衷
五六七．セツビが整う。（　　）設備
五六八．自然のセツリに従う。（　　）摂理
五六九．セツレツな文章。（　　）拙劣
五七〇．彼の説をゼニンする。（　　）是認
五七一．物事のゼヒを見極める。（　　）是非
五七二．入学試験がセマる。（　　）迫
五七三．食物センイをとる。（　　）繊維
五七四．飛行機がセンカイする。（　　）旋回
五七五．天皇の人間センゲン。（　　）宣言
五七六．センサイな神経の持ち主だ。（　　）繊細
五七七．条例はゼンジ改められよう。（　　）漸次
五七八．センパクの安全な運行を祈る。（　　）船舶
五七九．犯人がセンプクしていた場所。（　　）潜伏
五八〇．美しく力強いセンリツの曲だ。（　　）旋律
五八一．敵陣をセンリョウする。（　　）占領
五八二．薬が効をソウした。（　　）奏
五八三．条約のソウアンを練る。（　　）草案
五八四．ソウイを凝らした作品。（　　）創意
五八五．激しいゾウオが渦巻く。（　　）憎悪
五八六．ひどいソウオンだ。（　　）騒音
五八七．記念品をゾウテイする。（　　）贈呈
五八八．ソウナン者を救出する。（　　）遭難
五八九．ソウレツな最期を遂げる。（　　）壮烈
五九〇．村人からソガイされる。（　　）疎外
五九一．時代にソクオウする。（　　）即応
五九二．野菜をソクセイ栽培する。（　　）促成
五九三．ソクダンは下せない。（　　）即断
五九四．自由をソクバクされたくない。（　　）束縛
五九五．敵の侵入をソシする。（　　）阻止
五九六．救済ソチを待つ。（　　）措置
五九七．意思のソツウをはかる。（　　）疎通
五九八．ソッチョクな意見を述べる。（　　）率直
五九九．ソナえあれば憂いなし。（　　）備
六〇〇．仏前に花をソナえる。（　　）供

六〇一．車がソンショウを受ける。（　　）（　　）
六〇二．互いにソンチョウし合う。（　　）（　　）
六〇三．日曜はタイガイ家にいます。（　　）（　　）
六〇四．自宅でタイキしている。（　　）（　　）
六〇五．タイグウを改善する。（　　）（　　）
六〇六．応援団の大ダイコが鳴る。（　　）（　　）
六〇七．予算のタイコウを決める。（　　）（　　）
六〇八．英国にタイザイする。（　　）（　　）
六〇九．おなかのタイジが動き出す。（　　）（　　）
六一〇．金銭のタイシャクは避けたい。（　　）（　　）
六一一．貿易の自由化にタイショする。（　　）（　　）
六一二．児童をタイショウとした劇。（　　）（　　）
六一三．有利なタイセイになる。（　　）（　　）
六一四．タイダな生活を送る。（　　）（　　）
六一五．新しい勢力がタイトウする。（　　）（　　）
六一六．税金をタイノウする。（　　）（　　）
六一七．職務にタイマンだ。（　　）（　　）
六一八．郵便物がタイリュウする。（　　）（　　）
六一九．道路に木がタオれている。（　　）（　　）
六二〇．彼の意見にダキョウする。（　　）（　　）
六二一．タクエツした演技力だ。（　　）（　　）
六二二．タクバツな技術を身につけた。（　　）（　　）
六二三．団体交渉がダケツした。（　　）（　　）
六二四．病とタタカう。（　　）（　　）
六二五．捕虜をダッカイできた。（　　）（　　）
六二六．タッキュウの試合がある。（　　）（　　）
六二七．タッシャな老人だ。（　　）（　　）
六二八．ひもをタテヨコに結ぶ。（　　）（　　）
六二九．タナからぼた餅。（　　）（　　）
六三〇．古い習慣をダハする。（　　）（　　）
六三一．ダラクした生活を送る。（　　）（　　）
六三二．病人をタンカで運ぶ。（　　）（　　）
六三三．裁判官をダンガイする。（　　）（　　）
六三四．タンジョウ日を祝う。（　　）（　　）
六三五．国交がダンゼツした。（　　）（　　）
六三六．思わずタンソクを漏らす。（　　）（　　）
六三七．ダンソン女卑の風潮。（　　）（　　）
六三八．ダンチョウの思いである。（　　）（　　）
六三九．犯人とダンテイされた。（　　）（　　）
六四〇．タンネンに漢字を書く。（　　）（　　）

六四一・社会をタンボウする。（　）（探訪）
六四二・心身をタンレンする。（　）（鍛錬）
六四三・必勝を神にチカう。（　）（誓）
六四四・将来をチギりあう。（　）（契）
六四五・その本はチクジ発行される。（　）（逐次）
六四六・授業にはチコクしたくない。（　）（遅刻）
六四七・ひどいチジョクを受けた。（　）（恥辱）
六四八・車間距離をチヂめる。（　）（縮）
六四九・社会のチツジョを乱す。（　）（秩序）
六五〇・煙でチッソク死する。（　）（窒息）
六五一・チャクガン点がよい。（　）（着眼）
六五二・親のチュウコクを聞く。（　）（忠告）
六五三・争いをチュウサイする。（　）（仲裁）
六五四・チュウシャは昔から嫌いだ。（　）（注射）
六五五・他人をチュウショウするな。（　）（中傷）
六五六・貨幣をチュウゾウする。（　）（鋳造）
六五七・山のチュウフクで休む。（　）（中腹）
六五八・チュウヨウの道を守る。（　）（中庸）
六五九・連合軍がチュウリュウする。（　）（駐留）
六六〇・チョウカイ処分に付す。（　）（懲戒）
六六一・景気好転のチョウコウがある。（　）（兆候）
六六二・葬儀でチョウジを述べる。（　）（弔辞）
六六三・チョウシュウを魅了する。（　）（聴衆）
六六四・租税をチョウシュウする。（　）（徴収）
六六五・意見のチョウセイを図る。（　）（調整）
六六六・重いチョウバツを受ける。（　）（懲罰）
六六七・敬語のチョウフクを避ける。（　）（重複）
六六八・昔からチョウホウがられる。（　）（重宝）
六六九・チョウヤクの選手に選ばれた。（　）（跳躍）
六七〇・チョキンが倍に殖えた。（　）（貯金）
六七一・食糧をチョゾウする。（　）（貯蔵）
六七二・円のチョッケイを計算する。（　）（直径）
六七三・チョメイな学者に会う。（　）（著名）
六七四・病人のチリョウにあたる。（　）（治療）
六七五・反乱軍をチンアツする。（　）（鎮圧）
六七六・火災がチンカした。（　）（鎮火）
六七七・遠来のチンキャクをもてなす。（　）（珍客）
六七八・法廷でのチンジュツ。（　）（陳述）
六七九・チンセイ剤を投与した。（　）（鎮静）
六八〇・長いチンモクが続く。（　）（沈黙）

六八一．作品をチンレツする。（陳列）
六八二．家督をツぐ。（継）
六八三．茶の新芽をツむ。（摘）
六八四．相手にツめ寄って問いただした。（詰）
六八五．他人に親切をツくす。（尽）
六八六．朝方眠りにツいた。（就）
六八七．無駄金をツイやす。（費）
六八八．青春の日をツイオクする。（追憶）
六八九．飛行機がツイラクする。（墜落）
六九〇．ツウキン帰りの会社員。（通勤）
六九一．ツウコンの極みだ。（痛恨）
六九二．損失をツグナいたい。（償）
六九三．寄付金をツノる。（募）
六九四．鳥がツバサを休める。（翼）
六九五．庭は五十ツボほどある。（坪）
六九六．作物をツユシモから守る。（露霜）
六九七．ツルギを振りかざす。（剣）
六九八．問題をテイキする。（提起）
六九九．他企業とテイケイする。（提携）
七〇〇．平和条約をテイケツする。（締結）
七〇一．テイサイをつくろう。（体裁）
七〇二．テイシュクな妻を持つ。（貞淑）
七〇三．前言をテイセイする。（訂正）
七〇四．工事の初めにテイソを据える。（定礎）
七〇五．テイネイに説明する。（丁寧）
七〇六．河川にテイボウを築く。（堤防）
七〇七．それはテキギに判断してほしい。（適宜）
七〇八．獲物にテキチュウさせる。（的中）
七〇九．脱税をテキハツする。（摘発）
七一〇．問題はテギワよく処理された。（手際）
七一一．障害物をテッキョする。（撤去）
七一二．統制をテッパイする。（撤廃）
七一三．テツヤの受験勉強が続く。（徹夜）
七一四．テブクロを編む。（手袋）
七一五．出発前のテンコをとる。（点呼）
七一六．作文をテンサクする。（添削）
七一七．テンプの才能の持ち主だ。（天賦）
七一八．別紙に明細書をテンプする。（添付）
七一九．列車がテンプクした。（転覆）
七二〇．テンポを借りて商売する。（店舗）

七二一．テンラン会で入選した。（　）（　）展覧
七二二．任務をやりトげた。（　）（　）遂
七二三．旅先の宿にトまる。（　）（　）泊
七二四．家屋がトウカイする。（　）（　）倒壊
七二五．トウガイ事項を書き込む。（　）（　）当該
七二六．物価がトウキする。（　）（　）騰貴
七二七．現地をトウサする。（　）（　）踏査
七二八．船に資材をトウサイする。（　）（　）搭載
七二九．不況でトウサンする会社が多い。（　）（　）倒産
七三〇．音楽にトウスイする。（　）（　）陶酔
七三一．物価をトウセイする。（　）（　）統制
七三二．トウゼンの結果だ。（　）（　）当然
七三三．ドウタイ着陸に成功した。（　）（　）胴体
七三四．二人の会話をトウチョウした。（　）（　）盗聴
七三五．トウトツな質問を受ける。（　）（　）唐突
七三六．失望して現実からトウヒする。（　）（　）逃避
七三七．戸籍トウホンを取り寄せる。（　）（　）謄本
七三八．無色トウメイな水晶。（　）（　）透明
七三九．気持ちのドウヨウを鎮める。（　）（　）動揺
七四〇．子供とドウヨウを歌う。（　）（　）童謡
七四一．ドキョウのよい男だ。（　）（　）度胸
七四二．市場をドクセンする。（　）（　）独占
七四三．トクメイで投書した。（　）（　）匿名
七四四．留学生としてトコウしる。（　）（　）渡航
七四五．雪が降って交通がトゼツした。（　）（　）途絶
七四六．看板をトソウする。（　）（　）塗装
七四七．真情をトロする。（　）（　）吐露
七四八．努力もトロウに帰した。（　）（　）徒労
七四九．ドンテンの日が続く。（　）（　）曇天
七五〇．ナエの発育がよい。（　）（　）苗
七五一．電話で友をナグサめる。（　）（　）慰
七五二．春先にはナダレが起きやすい。（　）（　）雪崩
七五三．ナットクがいかない。（　）（　）納得
七五四．船がナナめに傾く。（　）（　）斜
七五五．他人にナンクセをつけるな。（　）（　）難癖
七五六．地盤がナンジャクだ。（　）（　）軟弱
七五七．ナンダイをいうな。（　）（　）難題
七五八．ナンドに古道具をしまう。（　）（　）納戸
七五九．ニガテな科目を復習する。（　）（　）苦手
七六〇．政治の主導権をニギる。（　）（　）握

七六一．ニクまれっ子世に憚る。（　）（憎）
七六二．ニマメを作る。（　）（煮豆）
七六三．重いニモツを背負う。（　）（荷物）
七六四．ニュウジャクな精神の持ち主。（　）（柔弱）
七六五．菩薩のようなニュウワな顔だ。（　）（柔和）
七六六．ニンシキ不足を恥じる。（　）（認識）
七六七．ニンタイ強く返事を待つ。（　）（忍耐）
七六八．舞台衣装をヌう。（　）（縫）
七六九．汚れた作業衣をヌぐ。（　）（脱）
七七〇．器に漆をヌる。（　）（塗）
七七一．彼はネグセ悪い。（　）（寝癖）
七七二．石炭がネンショウする。（　）（燃焼）
七七三．遺体をノウカンする。（　）（納棺）
七七四．容疑がノウコウになる。（　）（濃厚）
七七五．ノウムのため船は欠航だ。（　）（濃霧）
七七六．ノウリョウ花火大会を見る。（　）（納涼）
七七七．海にノゾむ宿。（　）（臨）
七七八．大変な暴言をハいたものだ。（　）（吐）
七七九．工場からハイエキが流れる。（　）（廃液）
七八〇．急性ハイエンにかかる。（　）（肺炎）
七八一．双方のバイカイとなる。（　）（媒介）
七八二．古い思想をハイゲキする。（　）（排撃）
七八三．暴力をハイジョする。（　）（排除）
七八四．ハガネのような肉体だ。（　）（鋼）
七八五．契約はハキされた。（　）（破棄）
七八六．両者の実力はハクチュウだ。（　）（伯仲）
七八七．建物をバクハした。（　）（爆破）
七八八．ハクハツの老人。（　）（白髪）
七八九．万国ハクラン会が開催された。（　）（博覧）
七九〇．ハクリョクある映像だった。（　）（迫力）
七九一．友好使節団をハケンする。（　）（派遣）
七九二．ハタメにも気の毒だった。（　）（傍目）
七九三．実力はハッキできたと思う。（　）（発揮）
七九四．遺跡をハックツする。（　）（発掘）
七九五．山林をバッサイする。（　）（伐採）
七九六．西洋文化のハッショウの地。（　）（発祥）
七九七．ハバツ争いが激しい。（　）（派閥）
七九八．委細をハブいて説明する。（　）（省）
七九九．ハロウ注意報が発令された。（　）（波浪）
八〇〇．世相をハンエイしている。（　）（反映）

八〇一．ハンカ街が長く続く。（繁華）
八〇二．手続きがハンザツで面倒だ。（煩雑）
八〇三．商売がハンジョウする。（繁盛）
八〇四．楽器でバンソウする。（伴奏）
八〇五．草が一面にハンモする。（繁茂）
八〇六．辞書はハンレイを見てから使う。（凡例）
八〇七．ハンレイに従った判決。（判例）
八〇八．ヒキンな例をあげる。（卑近）
八〇九．ヒゴウの死を遂げた。（非業）
八一〇．ヒショ地で夏を過ごす。（避暑）
八一一．彼女がビショウした。（微笑）
八一二．思わず声をヒソめた。（潜）
八一三．ヒソウ感が漂う。（悲壮）
八一四．先生のヒゾウの弟子だ。（秘蔵）
八一五．ヒタンに暮れる日々。（悲嘆）
八一六．生活ヒツジュ品を買い揃える（必需）
八一七．ヒツゼツに尽くしがたい。（筆舌）
八一八．彼にヒッテキする者はいない。（匹敵）
八一九．ヒナン場所を確認する。（避難）
八二〇．ビナン美女もやがて年をとる。（美男）
八二一．事実をヒニンする。（否認）
八二二．ヒフがかぶれた。（皮膚）
八二三．民衆のヒヘイは目に余った。（疲弊）
八二四．後日のためにビボウ録を書く。（備忘）
八二五．ヒボンな才能を感じさせる。（非凡）
八二六．足でヒョウシをとる。（拍子）
八二七．風景をビョウシャする。（描写）
八二八．ヒョウショウ式に列席する。（表彰）
八二九．無人島にヒョウチャクした。（漂着）
八三〇．ヒョウハクの旅に出る。（漂泊）
八三一．屋上にヒライ針をつける。（避雷）
八三二．ビリョクを尽くす。（微力）
八三三．ヒルイなき成果だ。（比類）
八三四．日章旗がヒルガエる。（翻）
八三五．ヒレツな行為はしない。（卑劣）
八三六．部活でヒロウこんぱいする。（疲労）
八三七．ヒンコンな生活に堪える。（貧困）
八三八．ヒンジャクな体格。（貧弱）
八三九．ビンボウでも幸せな生活。（貧乏）
八四〇．大地をフみしめる。（踏）

八四一．フウセツに堪える。（　）風雪
八四二．フウゾク小説を面白く読む。（　）風俗
八四三．笑う門にはフク来たる。（　）福
八四四．フクシ施設を充実させる。（　）福祉
八四五．主君にフクジュウする。（　）服従
八四六．フクゾウない意見を述べる。（　）腹蔵
八四七．身元フショウの人物。（　）不詳
八四八．工場の事故でフショウする。（　）負傷
八四九．ブジョク的な態度をとる。（　）侮辱
八五〇．フジン用の時計だ。（　）婦人
八五一．何のフゼイもありませんが。（　）風情
八五二．自己フタンが大きすぎる。（　）負担
八五三．会社のフチンにかかわる。（　）浮沈
八五四．新設校にフニンする。（　）赴任
八五五．政治がフハイする。（　）腐敗
八五六．フヘン妥当な見解だ。（　）普遍
八五七．霊魂はフメツである。（　）不滅
八五八．フヨウ家族が多い。（　）扶養
八五九．フリョの災難が振りかかる。（　）不慮
八六〇．寒さにフルえる。（　）震
八六一．火山のフンエンが上がる。（　）噴煙
八六二．不当な扱いにフンガイする。（　）憤慨
八六三．会議はフンキュウした。（　）紛糾
八六四．明治のブンゴウ、夏目漱石。（　）文豪
八六五．岩石をフンサイする。（　）粉砕
八六六．全集がブンサツで発行される。（　）分冊
八六七．成分をブンセキする。（　）分析
八六八．粘液をブンピツする。（　）分泌
八六九．官僚主義のヘイガイ。（　）弊害
八七〇．騒音にはヘイコウする。（　）閉口
八七一．工場をヘイサする。（　）閉鎖
八七二．常にヘイセイを保つべし。（　）平静
八七三．電池をヘイレツにつなぐ。（　）並列
八七四．ベンカイしても始まらない。（　）弁解
八七五．社会制度をヘンカクする。（　）変革
八七六．仕事上のベンギをはかる。（　）便宜
八七七．本をヘンキャクしてきた。（　）返却
八七八．考えがヘンキョウに過ぎる。（　）偏狭
八七九．借金をヘンサイする。（　）返済
八八〇．損害をベンショウする。（　）弁償

八八一．巧みなベンゼツで説得した。（　　）弁舌
八八二．社会がヘンセンする。（　　）変遷
八八三．多くの職業をヘンレキした。（　　）遍歴
八八四．年賀状の版画をホる。（　　）彫
八八五．油田をホる。（　　）掘
八八六．ボウインを慎む。（　　）暴飲
八八七．秋にはホウエが営まれる。（　　）法会
八八八．我軍はボウエイのためにある。（　　）防衛
八八九．家庭がホウカイする。（　　）崩壊
八九〇．進路をボウガイする。（　　）妨害
八九一．ホウガクの中では琴を習った。（　　）邦楽
八九二．事態をボウカンする。（　　）傍観
八九三．権利をホウキする。（　　）放棄
八九四．ボウケン談を語る。（　　）冒険
八九五．本は知識のホウコである。（　　）宝庫
八九六．ホウコク書を作成する。（　　）報告
八九七．仕事にボウサツされる。（　　）忙殺
八九八．ホウシ活動に参加した。（　　）奉仕
八九九．ボウシをかぶって外出する。（　　）帽子
九〇〇．仕事のホウシュウを受け取る。（　　）報酬
九〇一．ボウセキ工場を見学する。（　　）紡績
九〇二．文章にボウセンを引く。（　　）傍線
九〇三．ホウテイで判決を受ける。（　　）法廷
九〇四．絵馬をホウノウする。（　　）奉納
九〇五．悪をホウムり去る。（　　）葬
九〇六．先生のホウモンを受ける。（　　）訪問
九〇七．熱いホウヨウを交わす。（　　）抱擁
九〇八．ホウヨウ力のある父。（　　）包容
九〇九．ボキの専門学校へ通う。（　　）簿記
九一〇．害虫をボクメツする。（　　）撲滅
九一一．自らボケツを掘る。（　　）墓穴
九一二．息子をホコりに思う。（　　）誇
九一三．天然記念物をホゴする。（　　）保護
九一四．大臣をホサするのが次官だ。（　　）補佐
九一五．欠員のホジュウが必要だ。（　　）補充
九一六．会員をボシュウする。（　　）募集
九一七．道路をホソウする。（　　）舗装
九一八．会のホッキ人になる。（　　）発起
九一九．ホッサに襲われる。（　　）発作
九二〇．芸術にボットウする。（　　）没頭

九二一．田畑に肥料をホドコす。（　　）（　　）施
九二二．自由ホンポウに暮らす。（　　）（　　）奔放
九二三．洋書をホンヤクする。（　　）（　　）翻訳
九二四．マイゴの名が放送される。（　　）（　　）迷子
九二五．死者を墓地にマイソウする。（　　）（　　）埋葬
九二六．書類がどこかにマギれ込む。（　　）（　　）紛
九二七．舞台にマクがおりる。（　　）（　　）幕
九二八．経済マサツの緩和を図る。（　　）（　　）摩擦
九二九．手術の前にマスイをかける。（　　）（　　）麻酔
九三〇．人をマドわすな。（　　）（　　）惑
九三一．マボロシの魚を釣り上げた。（　　）（　　）幻
九三二．己にマンシンするな。（　　）（　　）慢心
九三三．世界マンユウの旅。（　　）（　　）漫遊
九三四．洪水でミズビタシになる。（　　）（　　）水浸
九三五．災害をミゼンに防ぐ。（　　）（　　）未然
九三六．前人ミトウの大偉業。（　　）（　　）未到
九三七．話にミャクラクがない。（　　）（　　）脈絡
九三八．夏山にミリョクを覚える。（　　）（　　）魅力
九三九．柳田国男はミンゾク学者だ。（　　）（　　）民俗
九四〇．ムジャキな子供の笑い顔。（　　）（　　）無邪気
九四一．ムジョウな人間だ。（　　）（　　）無情
九四二．ムジョウの風は時を選ばず。（　　）（　　）無常
九四三．彼女はたばこ屋の看板ムスメだ。（　　）（　　）娘
九四四．そのムネお伝えください。（　　）（　　）旨
九四五．地元のメイカを届ける。（　　）（　　）銘菓
九四六．メイカイな判断。（　　）（　　）明快
九四七．肝にメイキする。（　　）（　　）銘記
九四八．これで大儀メイブンも立つ。（　　）（　　）名分
九四九．同窓会メイボを作る。（　　）（　　）名簿
九五〇．メイヨある受賞だ。（　　）（　　）名誉
九五一．メイロウ活発な少年だ。（　　）（　　）明朗
九五二．他人にメイワクをかけない。（　　）（　　）迷惑
九五三．メグみの雨が降る。（　　）（　　）恵
九五四．メスイヌを飼う。（　　）（　　）雌犬
九五五．授業料をメンジョされた。（　　）（　　）免除
九五六．メンミツな計画を立てた。（　　）（　　）綿密
九五七．宴の席をモウける。（　　）（　　）設
九五八．金のモウジャにはなりたくない。（　　）（　　）亡者
九五九．モギ試験会場に向かう。（　　）（　　）模擬
九六〇．わがままをモクニンする。（　　）（　　）黙認

九六一．彼女の行動はモハン的だ。（　）（模範）
九六二．モフクを着て出かける。（　）（喪服）
九六三．芸術は自然をモホウする。（　）（模倣）
九六四．祝賀会をモヨオす。（　）（催）
九六五．心のヤサしい子だ。（　）（優）
九六六．人をヤトう。（　）（雇）
九六七．船が波にユれる。（　）（揺）
九六八．ユウエツ感を覚える。（　）（優越）
九六九．銀行が企業にユウシする。（　）（融資）
九七〇．ユウシュウな成績を修める。（　）（優秀）
九七一．ユウシュウの美を飾る。（　）（有終）
九七二．資金をユウズウする。（　）（融通）
九七三．代議士がユウゼイにまわる。（　）（遊説）
九七四．町に工場をユウチする。（　）（誘致）
九七五．ユウバえの美しい空。（　）（夕映）
九七六．ユウビン局で切手を買う。（　）（郵便）
九七七．ユウフクな家庭に育った。（　）（裕福）
九七八．執行をユウヨする。（　）（猶予）
九七九．ユウリョすべき状態だ。（　）（憂慮）
九八〇．実にユカイな話だった。（　）（愉快）
九八一．夏はユカタに限る。（　）（浴衣）
九八二．ユズり合いの精神を持つ。（　）（譲）
九八三．ユメさえ見ない深い眠りだ。（　）（夢）
九八四．ユメジをたどる思いだ。（　）（夢路）
九八五．言葉のユライを説明する。（　）（由来）
九八六．酒にヨう。（　）（酔）
九八七．ヨイの明星が輝く。（　）（宵）
九八八．ヨウキュウが飲まれた。（　）（要求）
九八九．人権ヨウゴの憲法。（　）（擁護）
九九〇．動物をヨウゴする。（　）（養護）
九九一．募集ヨウコウを読む。（　）（要項）
九九二．発表のヨウシをまとめる。（　）（要旨）
九九三．情けヨウシャない裁きだ。（　）（容赦）
九九四．鋼材をヨウセツする。（　）（溶接）
九九五．今年弟がヨウチ園に入る。（　）（幼稚）
九九六．農家にヨウトンを勧める。（　）（養豚）
九九七．ヨカを利用して読書する。（　）（余暇）
九九八．銀行にヨキンする。（　）（預金）
九九九．感情をヨクセイする。（　）（抑制）
一〇〇〇．長い間外国にヨクリュウされる。（　）（抑留）

一〇〇一．逮捕者のヨザイを追求する。（　）余罪
一〇〇二．ヨジョウ物資を輸出する。（　）余剰
一〇〇三．明日は晴天とヨソウされた。（　）予想
一〇〇四．平静をヨソオった。（　）装
一〇〇五．ヨダンを許さない状態。（　）予断
一〇〇六．姉がヨメに行く。（　）嫁
一〇〇七．ライヒンが多数参列する。（　）来賓
一〇〇八．名画がラクサツされた。（　）落札
一〇〇九．建物のラクセイ式がある。（　）落成
一〇一〇．結果を聞いてラクタンした。（　）落胆
一〇一一．ラクバン事故が起きた。（　）落盤
一〇一二．リコ主義な人間だ。（　）利己
一〇一三．リジュンを追求する。（　）利潤
一〇一四．食糧をリャクダツする。（　）略奪
一〇一五．石狩川のリュウイキは広い。（　）流域
一〇一六．リンキ応変な処置を望む。（　）臨機
一〇一七．汝のリンジンを愛せよ。（　）隣人
一〇一八．リンテン機で新聞を刷る。（　）輪転
一〇一九．リンリ観念の薄い人だ。（　）倫理
一〇二〇．両者のルイジ点を挙げる。（　）類似
一〇二一．ルイセキ赤字に苦しむ。（　）累積
一〇二二．ルテンの人生を送る。（　）流転
一〇二三．教えを世にルフする。（　）流布
一〇二四．ルロウの旅に出る。（　）流浪
一〇二五．レイギを重んずる校風。（　）礼儀
一〇二六．うがいをレイコウする。（　）励行
一〇二七．レイサイ企業を救済する。（　）零細
一〇二八．諸国レキホウの旅に出る。（　）歴訪
一〇二九．レッカのごとく怒る。（　）烈火
一〇三〇．レットウ感に悩まされる。（　）劣等
一〇三一．盲目的なレンアイもある。（　）恋愛
一〇三二．レンケイして事に当たる。（　）連携
一〇三三．面白い小説がレンサイされる。（　）連載
一〇三四．レンタイ感を高める。（　）連帯
一〇三五．漢詩をロウエイする。（　）朗詠
一〇三六．ロウニャク男女の集まり。（　）老若
一〇三七．悪事がロケンした。（　）露見
一〇三八．いいワケはしたくない。（　）訳
一〇三九．両親の手をワズラわす。（　）煩
一〇四〇．背骨がワンキョクしている。（　）湾曲

一〇四一．ワンパクな少年だ。（　　）腕白
一〇四二．ワンリョクを発揮する。（　　）腕力

同音異義

Ⅱ．次のカタカナを漢字になおしなさい。

一．
- 事件を所轄署にイカンする。
- 誠にイカンに堪えない。

移管
遺憾

二．
- イサイを放つ存在。
- イサイは面談の上。

異彩
委細

三．
- 別にイゾンはない。
- 外国資本にイゾンする。

異存
依存

四．
- エイガを極めた道長。
- 外国エイガを見る。

栄華
映画

五．
- 本校のエンカクを調べる。
- エンカクの地へ旅立つ。

沿革
遠隔

六．
- カイキを延長する。
- 複雑カイキな話。

会期
怪奇

七．
- 使用人をカイコする。
- 往時をカイコする。
- カイコの情にたえない。

解雇
回顧
懐古

八．
- 同窓会のカイホウを発刊する。
- 病人をカイホウする。
- 束縛からカイホウされる。
- 窓をカイホウする。
- 病気がカイホウに向かう。

会報
介抱
解放
開放
快方

九.

死体をカソウに付す。　火葬
カソウ敵国に基づく演習。　仮想
カソウ行列に加わる。　仮装

一〇.

一定のカンカクを置く。　間隔
カンカク的な文章。　感覚

一一.

注意をカンキする。　喚起
部屋のカンキに注意する。　換気

一二.

封建的なカンシュウを打破する。　慣習
カンシュウの拍手に迎えられる。　観衆

一三.

草花をカンショウする。　観賞
文学作品をカンショウする。　鑑賞
他人の行動にカンショウするな。　干渉
カンショウ的な気分になる。　感傷

一四.

政治にカンシンを寄せる。　関心
上役のカンシンを買う。　歓心
少年の不良化はカンシンに堪えない。　寒心

一五.

カンセイな郊外の家。　閑静
仕事がやっとカンセイした。　完成
一同がわっとカンセイをあげた。　歓声

一六.

カンソウ文を綴る。　感想
カンソウした空気。　乾燥

一七.

カンタン相照らす友。　肝胆
カンタンの声をあげる。　感嘆
カンタン明瞭。　簡単

一八.
細心の注意がカンヨウである。
カンヨウな態度で臨む。

肝要
寛容

一九.
キケンな場所。
投票のキケン防止。

危険
棄権

二〇.
約束のキゲン。
人類のキゲン。

期限
起源

二一.
彼は新聞にキコウした。
会社のキコウを改革する。
奥の細道はキコウ文である。
社屋のキコウ式を行った。

寄稿
機構
紀行
起工

二二.
キショウ観測を行う。
激しいキショウの人。
六時にキショウした。

気象
気性
起床

二三.
神仏にキネンする。
キネン切手を買う。

祈念
記念

二四.
キョウコウな態度。
経済キョウコウの兆し。

強硬
恐慌

二五.
キンコウを保つ。
大阪キンコウの地図。

均衡
近郊

二六.
消費増大による好ケイキ。
発展のケイキをつかむ。
ケイキを終えて出所する。

景気
契機
刑期

二七.
- 被害はケイショウであった。 — 軽少
- ケイショウの地をたびする。 — 景勝
- 文化遺産をケイショウする。 — 継承
- ケイショウを省略して呼ぶ。 — 敬称

二八.
- ケイチョウに値する意見。 — 傾聴
- ケイチョウ文の書き方を習う。 — 慶弔
- かなえのケイチョウを問う。 — 軽重

二九.
- 相手にコウイを寄せる。 — 好意
- 軽率なコウイを諫める。 — 行為
- 保健室でコウイの診察を受ける。 — 校医

三〇.
- コウエンな理想をいだく。 — 高遠
- 文学のコウエンを聴く。 — 講演
- 母校のコウエン会に寄付する。 — 後援

三一.
- 提案にサンセイする。 — 賛成
- 婦人にサンセイ権を認める。 — 参政
- 胃液はサンセイである。 — 酸性

三二.
- 大学は文系をシボウしている。 — 志望
- シボウ分の多い食物。 — 脂肪

三三.
- ショウガイ物を取り除く。 — 障害
- 会社のショウガイ係。 — 渉外
- ショウガイ罪で逮捕された。 — 傷害

三四.
- 負債を月賦でショウカンする。 — 償還
- 証人としてショウカンされる。 — 召喚

三五.
「シンギを重んじる。
「シンギの程を確かめる。
「法案をシンギする。

信義
真偽
審議

三六.
「長年シンコウを結んでいる。
「シンコウ宗教を信仰する。
「出発シンコウ。

親交
新興
進行

三七.
「事業のセイコウを祈る。
「セイコウをきわめた機械。

成功
精巧

三八.
「ゼッタイ多数。
「ゼッタイ絶命。

絶対
絶体

三九.
「国文学をセンコウする。
「書類センコウの上採用する。

専攻
選考

四〇.
「ソウギョウ五十周年。
「ソウギョウを再開する。

創業
操業

四一.
「母校の名誉をソウケンに担う。
「ごソウケンで何よりです。

双肩
壮健

四二.
「渡米選手のソウコウ会。
「講演のソウコウを練る。
「ソウコウ車で敵中を突破する。

壮行
草稿
装甲

四三.
「ソウゾウを絶する困難。
「新しい文化をソウゾウする。

想像
創造

四四.
「宿敵をダトウする。
「ダトウな見解。

打倒
妥当

四五.
タンセイな容姿。　端正
タンセイをこめて育てる。　丹精

四六.
責任をテンカする。　転嫁
ガスにテンカする。　点火
有害なテンカ物。　添加

四七.
寒さのためトウシする。　凍死
トウシ満々の気迫。　闘志
株式にトウシする。　投資

四八.
不要フキュウの仕事。　不急
フキュウの名作。　不朽
全国にフキュウする。　普及

四九.
経営フシン。　不振
フシンを抱き質問する。　不審
フシン感をいだく。　不信

五〇.
裁判をボウチョウする。　傍聴
市の人口がボウチョウする。　膨脹

五一.
前途ユウイな青年。　有為
絶対ユウイを占めている。　優位

五二.
科学者をヨウセイしている。　養成
警察の出勤をヨウセイする。　要請

同訓異義

Ⅲ．次のカタカナを漢字になおしなさい。

一．
- 放火犯人をアげる。
- 棚へ荷をアげる。
- テンプラをアげる。

二．
- アタタかい気候。
- アタタかい人情。

三．
- 夏のアツい日。
- アツい本。
- アツいお茶。

四．
- 傷がイタむ。
- 友の死をイタむ。

五．
- 手をウって喜ぶ。
- 杭をウつ。
- 敵をウつ。
- 鳥をウち落とす。

六．
- 水にウツる月影。
- 居を郊外にウツす。
- 文章をウツす。

七．
- 議長にオす。
- 荷車をオす。

八．
- 領土をオカす。
- 危険をオカす。
- 罪をオカす。

挙 上 揚　　暖 温　　暑 厚 熱　　痛 悼　　拍 打 討 撃　　映 移 写　　推 押　　侵 冒 犯

九.
- 税金をオサめる。
- 身をオサめる。
- 成果をオサめる。
- 紛争をオサめる。

納 修 収 治

一〇.
- 場所をカえる。
- 挨拶にカえる。
- 現金にカえる。

変 代 換

一一.
- 郷里にカエる。
- 借りた本をカエす。

帰 返

一二.
- 自らをカエリみる。
- 過去をカエリみる。

省 顧

一三.
- カタいボールを用いる。
- 意志がカタい。
- カタい決心。

硬 堅 固

一四.
- 真理をキワめる。
- キワめて残念だ。
- 進退キワまる。

究 極 窮

一五.
- 山をコえて隣村にでる。
- 程度をコえたいたずら。
- コえた土地。

越 超 肥

一六.
- 悪人をコらしめる。
- 工夫をコらす。

懲 凝

一七.
- 布をサく。
- 時間をサく。
- 人目をサける。

裂 割 避

一八.
- 非行をサトす。
- 世の無常をサトる。

諭 悟

一九.
- 帯をシめる。
- 首をシめる。
- よい位置をシめる。

締 絞 占

二〇.
- 暴動をシズめる。
- 敵艦をシズめる。

鎮 沈

二一.
- マッチをスる。
- 名刺をスる。
- 墨をスる。

擦 刷 摺

二二.
- 預金をススめる。
- 良書をススめる。
- 馬を前にススめる。

勧 薦 進

二三.
- 失敗をセめる。
- 城をセめる。

責 攻

二四.
- 川にソって歩く。
- 花束に手紙をソえる。

沿 添

二五.
- 道をタズねる。
- 友をタズねる。

尋 訪

二六.
- 船で横浜にツく。
- 皇位にツく。
- 職にツく。
- 人をツき倒す。

即着
就即
突就

二七.
- 会社の事務をトる。
- 写真をトる。
- 山へ昆虫をトりに行く。
- 手にトって見る。

執執
撮撮
採採
取取

二八.
- 準備をトトノえる。
- 音律をトトノえる。

整整
調調

二九.
- 先例にナラう。
- 字をナラう。

倣倣
習習

三〇.
- 手足をノばす。
- 出発をノばす。

伸伸
延延

三一.
- 開会式にノゾむ。
- 遠く海をノゾむ。

臨臨
望望

三二.
- 長さや広さをハカる。
- 時間をハカる。
- 暗殺をハカる。
- 重さをハカる。
- 合理化をハカる。
- 会議にハカる。

測測
計計
謀謀
量量
図図
諮諮

三三.
- 富士山がミエる。
- 医者が患者をミる。

見見
診診

三四.

「敵味方にワかれる。
「ワかれの挨拶。
「お湯がワく。

分別沸

Ⅳ．四字熟語を覚えなさい。

四字熟語については、次のように出題します。

〈一〉次の四字熟語を完成させなさい。

□（せっ）□（さ）琢磨

〈二〉次の四字熟語の読みがなを（　　）の中に書きなさい。

切磋琢磨（　　）

〈三〉次の四字熟語の意味を簡単に説明しなさい。

切磋琢磨

（　　）

一．曖昧模糊　あいまいもこ　あやふやではっきりしないさま。
二．悪戦苦闘　あくせんくとう　苦しい戦いをすること。
三．安心立命　あんしんりつめい　天命を悟り、心安らかになること。
四．暗中模索　あんちゅうもさく　よくわからぬままいろいろやってみること。
五．唯唯諾諾　いいだくだく　少しもさからわず人の言いなりになるさま。
六．意気軒昂　いきけんこう　元気いっぱいなさま。
七．意気消沈　いきしょうちん　元気がなくなること。
八．意気投合　いきとうごう　たがいに気持ちがぴったり合うこと。
九．意気揚揚　いきようよう　得意でほこらしげなさま。
一〇．異口同音　いくどうおん　多くの人が口をそろえて同じことをいうこと。
一一．意志薄弱　いしはくじゃく　決断力がとぼしく、やりとげようとする心がよわいこと。
一二．以心伝心　いしんでんしん　言葉によらず気持ちが通じ合うこと。
一三．一意専心　いちいせんしん　ひたすら一つのことに、心を集中すること。
一四．一期一会　いちごいちえ　一生に一度の出会い。
一五．一日千秋　いちにちせんしゅう　一日が千年にも思われるほど待ち遠しいこと。
一六．一念発起　いちねんほっき　あることをなしとげようと決心し熱心になること。
一七．一網打尽　いちもうだじん　一度に一味を残らずとらえること。
一八．一目瞭然　いちもくりょうぜん　一目見ただけではっきりしているさま。
一九．一利一害　いちりいちがい　利益もあるが害もあること。利と害が同じくらいあること。
二〇．一蓮托生　いちれんたくしょう　善悪にかかわりなく行動や運命をともにすること。
二一．一獲千金　いっかくせんきん　苦労しないで一度に大きな利益を得ること。
二二．一喜一憂　いっきいちゆう　状況がかわるたびに喜んだり心配したりすること。
二三．一気呵成　いっきかせい　大急ぎで仕事をしてしまうこと。
二四．一騎当千　いっきとうせん　並外れて、すぐれた力量を持っていること。
二五．一挙両得　いっきょりょうとく　一つのことをして、二つの利益を得ること。
二六．一刻一秒　いっこくいちびょう　少しの猶予もままならない状態。

二七・一刻千金　いっこくせんきん
ひとときが千金に値するほどすばらしいこと。

二八・一瀉千里　いっしゃせんり
物事が非常にはかどり一気に進むこと。

二九・一触即発　いっしょくそくはつ
ちょっとしたことで大事になりそうな危険な状態にあること。

三〇・一進一退　いっしんいったい
情勢がよくなったり悪くなったりすること。

三一・一心同体　いっしんどうたい
二人以上の人間が心も体も一つであるかのように結びつくこと。

三二・一心不乱　いっしんふらん
心を一つのことに集中してほかのことにみだされないこと。

三三・一世一代　いっせいいちだい
一生のうちただ一度であること。一生にまたとない立派なことをすること。

三四・一石二鳥　いっせきにちょう
一つのことをして、二つの利益を得ること。

三五・一朝一夕　いっちょういっせき
わずかな日時。ほんの少しの間。

三六・一長一短　いっちょういったん
よい点もあるが、悪い点もあるということ。

三七・一刀両断　いっとうりょうだん
物事を思い切ってあざやかに処理すること。

三八・意味深長　いみしんちょう
表現の意味する内容が深くふくみがあること。言外に別の意味があること。

三九・因果応報　いんがおうほう
行いの善悪に応じて、それにふさわしいむくいがあること。

四〇・有為転変　ういてんぺん
万物は激しく変化し常なるものがないこと。

四一・右往左往　うおうさおう
うろたえまごつくさま。

四二・海千山千　うみせんやません
さまざまな経験をして世の中のことに通じずるがしこいこと。

四三・紆余曲折　うよきょくせつ
まがりくねり、いりくんでいること。

四四・雲散霧消　うんさんむしょう
ちりじりに消えうせること。

四五・栄枯盛衰　えいこせいすい
さかえたりおとろえたりすること。

四六・岡目八目　おかめはちもく
当事者より第三者のほうがかえって物事を正確に判断できる。

四七・温厚篤実　おんこうとくじつ
おだやかでやさしく誠実で親切なこと。

四八・温故知新　おんこちしん
古いことを研究して、そこから新しい知識や道理を発見すること。

四九・外柔内剛　がいじゅうないごう
表面はおだやかに見えるが、実際は意志などが強いこと。

五〇．快刀乱麻　かいとうらんま　もつれた物事を、あざやかに処理すること。

五一．臥薪嘗胆　がしんしょうたん　目的を達成するために、長い間並々ならぬ苦労をすること。

五二．花鳥風月　かちょうふうげつ　自然の美しい風物。風流。

五三．隔靴掻痒　かっかそうよう　靴の上からかゆいところをかくように、はがゆくもどかしいこと。

五四．我田引水　がでんいんすい　自分の都合がいいように考えたり行ったりすること。

五五．画竜点睛　がりょうてんせい　物事の最も大事な部分。最後の仕上げ。

五六．感慨無量　かんがいむりょう　身にしみて深く感じること。

五七．冠婚葬祭　かんこんそうさい　習慣として行われている慶弔の儀式。

五八．勧善懲悪　かんぜんちょうあく　よいことをほめすすめ、悪いことをいましめこらしめること。

五九．危機一髪　ききいっぱつ　非常にあぶないせとぎわ。

六〇．奇奇怪怪　ききかいかい　非常にめずらしくふしぎなさま。

六一．危急存亡　ききゅうそんぼう　生き残るかほろびるかのせとぎわ。

六二．起死回生　きしかいせい　死にかかっている人やほろびかかっているものを生きかえらせること。

六三．起承転結　きしょうてんけつ　漢詩、特に絶句の構成法で、起は詩意を起こし、承はそれを承けて述べ、転は一転して別の境地を述べ、結は全体を結ぶこと。

六四．喜色満面　きしょくまんめん　うれしさいっぱいの顔つき。

六五．疑心暗鬼　ぎしんあんき　心に疑いをもって見ると、何でもないことまであやしく思われるということ。

六六．奇想天外　きそうてんがい　思いもよらないようなとっぴなこと。

六七．喜怒哀楽　きどあいらく　よろこびと、いかりと、かなしみと、たのしみ。

六八．旧態依然　きゅうたいいぜん　昔からの状態のままで変化や進歩が見られないさま。

六九．急転直下　きゅうてんちょっか　事態が急にかわって決着すること。変化が急激であること。

七〇．興味津津　きょうみしんしん　おもしろみが次々にわきつきないこと。

七一．虚虚実実　きょきょじつじつ　たがいに計略をつくして争うさま。

七二．曲学阿世　きょくがくあせい　学問の道理を曲げて時勢にこびへつらうこと。

七三．玉石混淆　ぎょくせきこんこう　良いものと悪いものとが入りまじっていること。

七四．虚心坦懐　きょしんたんかい　心にわだかまりがなく気持ちがさっぱりしているさま。

七五．金科玉条　きんかぎょくじょう　何より大事にしている規則。自分が行動するうえで絶対的なよりどころにしている事柄。

七六．謹厳実直　きんげんじっちょく　つつしみ深く、まじめなこと。

七七．空前絶後　くうぜんぜつご　前にも後にも例がないこと。きわめてまれなこと。

七八．空中楼閣　くうちゅうろうかく　架空の事柄。

七九．空理空論　くうりくうろん　現実からかけはなれた実際の役に立たない理論。

八〇．群雄割拠　ぐんゆうかっきょ　多くの英雄がそれぞれの領地にたてこもって争うこと。

八一．軽挙妄動　けいきょもうどう　軽はずみな行動をすること。

八二．捲土重来　けんどちょうらい　一度失敗した者が勢力を盛りかえしてくること。

八三．厚顔無恥　こうがんむち　はじ知らずであつかましいこと。

八四．巧言令色　こうげんれいしょく　巧みな言葉で愛想よくすること。

八五．荒唐無稽　こうとうむけい　根拠がなくでたらめなこと。とりとめのないこと。

八六．公明正大　こうめいせいだい　公平で私心がなく正しく堂々としていること。

八七．呉越同舟　ごえつどうしゅう　利害の対立する者がたまたま同じ場所、同じ立場にいること。

八八．孤軍奮闘　こぐんふんとう　力を貸す者がなくただ一人でたたかうこと。

八九．虎視眈眈　こしたんたん　機会をじっとねらっているさま。

九〇．故事来歴　こじらいれき　伝わっている事物のいわれや由来。

九一．誇大妄想　こだいもうそう　自分の状態を大げさに空想して事実と思いこむこと。

九二．孤立無援　こりつむえん　一人だけはなれていて助ける者がないこと。

九三．五里霧中　ごりむちゅう　事情がわからずどうしてよいかわからないこと。

九四．言語道断　ごんごどうだん　とんでもないこと。もってのほか。

九五．才色兼備　さいしょくけんび　女性がすぐれた才能と美しい容貌の両方に恵まれていること。

九六．山紫水明　さんしすいめい　美しい山水の形容。

九七．自画自賛　じがじさん　自分の行為や自分にかかわることを自分でほめること。

九八．色即是空　しきそくぜくう
九九．自給自足　じきゅうじそく
一〇〇．四苦八苦　しくはっく
一〇一．自業自得　じごうじとく
一〇二．自縄自縛　じじょうじばく
一〇三．自然淘汰　しぜんとうた
一〇四．時代錯誤　じだいさくご
一〇五．七転八倒　しちてんばっとう
一〇六．質実剛健　しつじつごうけん
一〇七．自暴自棄　じぼうじき
一〇八．四面楚歌　しめんそか
一〇九．弱肉強食　じゃくにくきょうしょく
一一〇．縦横無尽　じゅうおうむじん
一一一．終始一貫　しゅうしいっかん
一一二．衆人環視　しゅうじんかんし
一一三．十人十色　じゅうにんといろ
一一四．自由奔放　じゆうほんぽう
一一五．主客転倒　しゅきゃくてんとう
一一六．取捨選択　しゅしゃせんたく
一一七．酒池肉林　しゅちにくりん
一一八．首尾一貫　しゅびいっかん
一一九．順風満帆　じゅんぷうまんぱん
一二〇．盛者必衰　じょうしゃひっすい
一二一．正真正銘　しょうしんしょうめい
一二二．枝葉末節　しようまっせつ

万物の形は仮のもので本質は無であるということ。
必要な物を自ら生産してまかなうこと。
非常に苦しむこと。人間のあらゆる苦しみ。
自分が行った悪事の報いは自分の身に受けなければならない。
自分のしたことが原因で動きがとれなくなること。
環境に適応できるものが生き残り、適応できないものが滅びること。
時勢がつかめず昔のやり方を守っていること、時代遅れ。
苦痛にころげまわってもがくこと。のたうちまわること。
かざりけがなく、まじめで、強く、たくましいこと。
なげやりな態度をとること。すてばちになること。
まわりがすべて敵で孤立していること。
弱い者が強い者のえじきになること。
思う存分ふるまうさま。思うままに活躍するさま。
言行がはじめから終わりまで変わらないこと。
大勢の人々がとりまいて見ているさま。
好み、考え、性格などは、人によりまちまちである。
自分の思うとおりにふるまうこと。
軽重や順序が、あべこべになること。
良いもの、必要なものを選び取り、悪いもの不要なものを捨てること。
非常にぜいたくな酒宴。
全体を通じて、筋が通っていること。
物事が調子よく進みはかどること。
勢いの盛んな者も、いつかは必ず衰えるということ。この世の無常であることをいう。
うそ、いつわりがないこと。
主要でない、つまらない細かいこと。

一二三・諸行無常　しょぎょうむじょう　世の中の全ての物は、変化してやまないということ。

一二四・初志貫徹　しょしかんてつ　初めのこころざしを、つらぬきとおすこと。

一二五・支離滅裂　しりめつれつ　ばらばらで、まとまりがないこと。めちゃめちゃなこと。

一二六・心機一転　しんきいってん　あることをきっかけにして、気持ちを全く入れかえること。

一二七・伸縮自在　しんしゅくじざい　のばしたりちぢめたりが、思いのままなこと。

一二八・神出鬼没　しんしゅつきぼつ　非常にすばやく現れたり消えたりすること。

一二九・信賞必罰　しんしょうひつばつ　功績のある者には必ず賞を与え、罪を犯した者は必ず罰すること。

一三〇・針小棒大　しんしょうぼうだい　小さなことを、大げさに言うこと。

一三一・新進気鋭　しんしんきえい　新しく出てきて認められ、意気込みが盛んなこと。また、その人。

一三二・新陳代謝　しんちんたいしゃ　古いものが去り、新しいものがこれに代わること。生物が不必要なものを体外に出し、必要なものを取り入れること。

一三三・深謀遠慮　しんぼうえんりょ　遠い将来のことまで深く考え、はかりごとをめぐらすこと。

一三四・森羅万象　しんらばんしょう　天地の間のいっさいのもの、いっさいの現象。

一三五・晴耕雨読　せいこううどく　天気のよい日には田畑をたがやし、雨の日には読書をすること。また、そういう自由な生活。

一三六・生殺与奪　せいさつよだつ　生かすも殺すも思いのままであること。

一三七・誠心誠意　せいしんせいい　まごころをもって、ことにあたること。

一三八・正正堂堂　せいせいどうどう　態度が正しく立派なさま。

一三九・青天白日　せいてんはくじつ　やましいところがないこと。無罪が明らかになること。

一四〇・清廉潔白　せいれんけっぱく　心や行いが清く正しく、やましいところがないこと。

一四一・切磋琢磨　せっさたくま　たがいにはげましあい競いあって、学徳をみがくこと。

一四二・絶体絶命　ぜったいぜつめい　どうしてものがれられない、せっぱつまった状況にあること。

一四三・千客万来　せんきゃくばんらい　多数の客が、たえまなくつぎつぎやってくること。

一四四．千軍万馬　せんぐんばんば　経験がゆたかで場なれしていること。
一四五．千載一遇　せんざいいちぐう　またとない絶好の機会。
一四六．千差万別　せんさばんべつ　多くのものがそれぞれさまざまに異なっているさま。

一四七．前人未踏　ぜんじんみとう　今まで誰も足を踏み入れていないこと。
一四八．戦戦恐恐　せんせんきょうきょう　びくびくと恐れつつしむさま。
一四九．前代未聞　ぜんだいみもん　今までに聞いたことがない珍しいこと。
一五〇．前途遼遠　ぜんとりょうえん　行き先がはるかに遠いこと。これからの道のりが長いこと。

一五一．千変万化　せんぺんばんか　さまざまに変化すること。
一五二．創意工夫　そういくふう　新しく考え出し、よい方法を見つけること。

一五三．相思相愛　そうしそうあい　男女がたがいに、したい愛しあうこと。
一五四．率先垂範　そっせんすいはん　他の人に先立って行動し、手本となること。

一五五．大器晩成　たいきばんせい　大人物は大成するのに時間がかかるということ。

一五六．大義名分　たいぎめいぶん　だれもがもっともだと認める道理、理由根拠。

一五七．大言壮語　たいげんそうご　実力もないのに大きなことを言うこと。
一五八．泰然自若　たいぜんじじゃく　物事に動ぜず平然としているさま。
一五九．大胆不敵　だいたんふてき　度胸があって物おじしないこと、
一六〇．大同小異　だいどうしょうい　だいたい同じで少しちがうこと。大差ないこと。

一六一．多士済済　たしせいせい　すぐれた立派な人物が多いさま。
一六二．多種多様　たしゅたよう　種類が多くさまざまであること。
一六三．単刀直入　たんとうちょくにゅう　前置きや余談をぬきにして、ただちに要点、本題にはいること。

一六四．朝令暮改　ちょうれいぼかい　命令や規則がくるくるかわること。
一六五．直情径行　ちょくじょうけいこう　感情を直ちに言動に出すこと。
一六六．猪突猛進　ちょとつもうしん　向こう見ずに勢いよくまっすぐに突き進むこと。

一六七．沈思黙考　ちんしもっこう　ものおもいにしずんで、静かに考えこむこと。

一六八．適材適所　てきざいてきしょ　才能に最もふさわしい用い方をすること
一六九．徹頭徹尾　てっとうてつび　最初から最後まで。一貫して。
一七〇．天衣無縫　てんいむほう　自然でむじゃきなこと。技巧のあとが見えず完全で美しいこと。

一七一．天涯孤独　てんがいこどく　身寄りがなくたった一人であること。

一七二．天下無双　てんかむそう　世界で並ぶものがないほど優れていること。

一七三．電光石火　でんこうせっか　行動がきわめてすばやいこと。きわめて短い時間。

一七四．天真爛漫　てんしんらんまん　純真で底ぬけに明るいさま。

一七五．天変地異　てんぺんちい　天地の間に起こる異変。

一七六．当意即妙　とういそくみょう　その時に適応したその場の機転。

一七七．同床異夢　どうしょういむ　同じ立場にいながら思惑がちがうこと。

一七八．東奔西走　とうほんせいそう　あちこちかけまわること。

一七九．独断専行　どくだんせんこう　自分だけの考えで、思うとおりにすること。

一八〇．特筆大書　とくひつたいしょ　ことさらに目立つように書き記すこと。

一八一．独立独歩　どくりつどっぽ　他に頼らずひとりだちして、自分の思うとおりに行うこと。

一八二．内憂外患　ないゆうがいかん　国の内と外との両方に、心配事があること。

一八三．難攻不落　なんこうふらく　攻めにくくて、容易に陥落しないこと。

一八四．南船北馬　なんせんほくば　各地をたえずせわしく旅行すること。

一八五．二者択一　にしゃたくいつ　二つのうち、どちらか一つを選びとること。また、どちらか一つを選ばなければならないこと。

一八六．二束三文　にそくさんもん　数が多く非常に値段が安いこと。

一八七．日進月歩　にっしんげっぽ　日に日に進歩すること。

一八八．馬耳東風　ばじとうふう　人の意見や忠告に、全く耳をかさないこと。聞き流すこと。

一八九．波瀾万丈　はらんばんじょう　浮き沈み、変化が激しいこと。

一九〇．罵詈雑言　ばりぞうごん　口ぎたなく悪口を言いののしること。

一九一．半信半疑　はんしんはんぎ　なかば信じ、なかばうたがうこと。本当かうそか、どっちだろうとまよっているさま。

一九二．美辞麗句　びじれいく　美しくかざりたてた言葉と立派な文句。

一九三．眉目秀麗　びもくしゅうれい　顔立ちが非常にととのいきれいなこと。

一九四．百戦錬磨　ひゃくせんれんま　かずかずの実戦や経験を積んできたえられること。

一九五．百花繚乱　ひゃっかりょうらん　さまざまな花が咲きみだれること。すぐれた人物や業績が一時期にたくさん現れること。

一九六．百発百中　ひゃっぱつひゃくちゅう　予想や計画がすべてあたること。

一九七．表裏一体　ひょうりいったい　二つのものの関係が密接で切りはなせないこと。

一九八．疲労困憊　ひろうこんぱい　極度につかれること。

一九九．風光明媚　ふうこうめいび　自然のながめが、すぐれて美しいこと。

二〇〇．不倶戴天　ふぐたいてん　いっしょには生存できないこと。殺したいほど、うらみや憎しみが深いこと。

二〇一．不言実行　ふげんじっこう　黙って行うこと。

二〇二．不撓不屈　ふとうふくつ　どんな困難にもくじけないこと。

二〇三．付和雷同　ふわらいどう　見識がなく軽々しく他人の意見にしたがうこと。

二〇四．粉骨砕身　ふんこつさいしん　力のかぎりつくすこと。一所懸命に働くこと。

二〇五．平身低頭　へいしんていとう　身をかがめ恐縮するさま。

二〇六．変幻自在　へんげんじざい　変化がすばやくたくみなこと。

二〇七．暴飲暴食　ぼういんぼうしょく　度を越して飲んだり食ったりすること。

二〇八．傍若無人　ぼうじゃくぶじん　人前をはばからず勝手気ままにふるまうこと。

二〇九．茫然自失　ぼうぜんじしつ　気ぬけしてぼんやりしてしまうこと。

二一〇．抱腹絶倒　ほうふくぜっとう　腹をかかえて笑いころげること。

二一一．本末転倒　ほんまつてんとう　大切なこととそうでないこととを混同すること。

二一二．無為自然　むいしぜん　自然のままで人手が加わっていないこと。

二一三．無学文盲　むがくもんもう　無学で字がよめないようす。

二一四．無我夢中　むがむちゅう　ある事に熱中してわれを忘れること。

二一五．無知蒙昧　むちもうまい　知識がなく物事の道理に暗いこと。

二一六．無病息災　むびょうそくさい　病気もなく元気であること。

二一七．無味乾燥　むみかんそう　おもしろみのないさま。

二一八．名誉毀損　めいよきそん　よい評判をそこないきずつけること。

二一九．面目躍如　めんぼくやくじょ　大いに面目をほどこすこと。

二二〇．有害無益　ゆうがいむえき　害があって益のないこと。

二二一．優柔不断　ゆうじゅうふだん　ぐずぐずして煮え切らないさま。決断力がないこと。

二二二．有名無実　ゆうめいむじつ　名ばかりで実態のないもの。

二二三．勇猛果敢　ゆうもうかかん　勇気があって強く決断力に富んでいること。

二二四．悠悠自適　ゆうゆうじてき　思うままに静かな生活を送ること。

二二五．油断大敵　ゆだんたいてき　気をゆるめると、とんでもないことになるから注意せよということ。

二二六．用意周到　よういしゅうとう　用意がゆきとどいていること。

二二七．羊頭狗肉　ようとうくにく　見かけ倒し。

二二八．離合集散　りごうしゅうさん　はなれたり合わさったりすること。
二二九．流言飛語　りゅうげんひご　事実ではない無責任なうわさ。
二三〇．竜頭蛇尾　りゅうとうだび　はじめは勢いがよく、終わりになるにつれてふるわないこと。
二三一．理路整然　りろせいぜん　物事や話のすじ道が、とととのっているさま。
二三二．臨機応変　りんきおうへん　その場その時に応じた適切な処置をとること。
二三三．論功行賞　ろんこうこうしょう　てがらの有無や大小を論じ定めて、ほうびを与えること。

Ⅴ．次の故事、ことわざの意味を説明しなさい。

一．阿吽（あうん）の呼吸

二人以上で一つのことをするときに、気持がぴったり合っている様子をいうことば。

二．青菜に塩

新鮮な野菜に塩をふりかけるとしおれてしまうように、元気のよかった者が急にしょんぼりすることのたとえ。

三．青は藍（あい）より出（い）でて藍より青し

弟子が先生よりも優れていることのたとえ。

四．悪事千里を走る

悪いことをすると、それがたちまち噂になって千里の遠方まで知れわたるという意味。

五．悪銭身につかず

不正な方法で得たお金は、つまらないことに使ってしまって、たちまちなくなってしまう。

六．朝起きは三文（さんもん）の徳

早起きをすれば、何かの得があるということで、早起きをすすめることば。

七．明日ありと思う心の仇桜（あだざくら）

今日は美しく咲き誇っている桜だが、明日もまた見られるだろうと思っていても、その夜のうちに強い風を受けて散ってしまうかもしれないということ。未来の不確実さ、人生の無常を説いたことば。

八．羹（あつもの）に懲りて膾（なます）を吹く

熱い吸い物にうっかり口をつけて懲りたために冷たい膾まで吹いて食べるということで、前の失敗によって無益な用心をするたとえ。

九．後（あと）足で砂をかける

世話になった人の恩を忘れるばかりか、去りぎわにさらに迷惑をかける。

一〇．後（あと）は野となれ山となれ

当面している事態さえ切り抜けられるなら、将来それがどんな結果になろうと構わないという態度のこと。

一一．痘痕も靨
好意を覚える人の欠点や短所が、逆に美点や長所に見えるという意味。

一二．虻蜂取らず
二つの物を得ようと欲張って、結局どちらも得られないことのたとえ。

一三．油に水
たがいにとけあわず、しっくりしないこと。

一四．雨垂れ石をうがつ
少しずつの力でも、根気よくやれば成功する。

一五．雨降って地固まる
雨が降った後は地面が堅く締まるのと同様に、もめごとが起きたあとで、かえって物事が円満に納まること。

一六．蟻の穴から堤の崩れ
頑丈に築いた堤防も、小さな蟻の穴が原因となって崩壊することがある。わずかな油断や手違いによって重大な物事が駄目になることのたとえ。

一七．案ずるより生むが易し
出産が近づいた妊婦はあれこれと心配するが、実際はそれほど困難なものではなくて簡単に済むことが多い。はかの物事も似たようなもので、取り越し苦労をするには及ばないことをいったもの。

一八．言うは易く行うは難し
口で言うのは誰にでもできるが、実行するのは難しい。

一九．生き馬の目を抜く
生きている馬の目でさえ抜き取ってしまうという意味から、無法にも他人を出し抜いて素早く利を得ること。また、油断もすきもならないたとえ。

二〇．石が流れて木の葉が沈む
重い石が水に流れて軽い木の葉が水に沈むように、物事が逆になること。

二一．石に漱ぎ、流れに枕す
間違いを強いて押し通すこと。負け惜しみの強いこと。

二二．石に立つ矢
一心をこめて物事にあたれば、どんなことでもできるということ。

二三．石の上にも三年
冷たい石の上であっても、三年も座り続けていれば暖まってくるという意味で、どんなに辛いことがあっても耐え忍んでいれば報いられるというたとえ。

二四．石橋を叩いて渡る
石でできた丈夫な橋を渡るときでも、渡る前に叩いて安全を確かめるように、念には念を入れて用心するということ。

二五．医者の不養生
医者は他人には養生の大切さを説くが、自分は案外不養生だという意味で、立派なことを言いながら実行が伴わないたとえ。

二六．衣食足りて礼節を知る
人間は着る物や食う物に不自由しなくなって生活に余裕が生じると、自然に礼儀や節度をわきまえるようになるという意味。

二七．一日千秋の思い
一日が千年のように長く感じられるということで、待ち遠しい気持ちをいう。

二八．一日の長
一日だけ先に生まれたということで、少し年上であること。経験や技能などが、一段とすぐれていること。

二九．一を聞いて十を知る
優秀な人間は、少し聞いただけで全体が分るというたとえ。

三〇．一寸の光陰軽んずべからず
少しの時間でも、無駄に過ごしてはならない。寸暇を惜しんで、勉学に励めということ。

三一．一寸の虫にも五分の魂
生き物である限りどんな弱小であっても、それ相当の意地や根性があるから決して軽蔑してはならないという戒め。

三二．井の中の蛙大海を知らず
井戸の中の狭い世界に住んでいる蛙は広大な海というものを知らないという意味で、自分の狭い知識や経験にとらわれて、広い世界が他にあることを知らない人の場合をいう。

三三．入るを量りて出ずるを為す
収入をよく計算して、それに応じた支出をするということ。

三四．鰯の頭も信心から
第三者の目からはつまらない物でも、信仰が関係してくるとありがたく思われるということ。

三五．魚心あれば水心
こちらが好意を示せば、相手も好意をもつだろうということ。

三六．烏合の衆
からすの集まりのように、たださわぐだけで、規律も統一もない群衆のこと。

三七．雨後の筍
雨の降った後にたけのこがにょきにょき生えるように、続いて多く発生することのたとえにいう。

三八．牛に引かれて善光寺詣り
人につれられて、思いがけなく行くことのたとえ。あまり気がすすまないままに、人と一緒に行動することにもいう。

三九．氏より育ち
家柄や血統といったものより、環境や育てられ方のほうが人間形成に深く関係するということ。

四〇．鵜の真似する烏
鵜のまねをして魚をとろうとする烏はおぼれるということから、自分の力を考えないで人の真似をする者は失敗することのたとえ。

四一．独活の大木
体は人並み外れて大きいが、取り得がなくて役に立たない人間のたとえ。

四二．馬の耳に念仏
少しも感じないこと。一向にありがたく感じないこと。

四三．絵に描いた餅
絵の餅は、どんなに本物に似ていておいしそうであっても食べられない。頭の中で考えただけで実現する可能性のない計画、あるいは空想などのたとえ。

四四・海老で鯛を釣る
　少しのえさで大きなえものをとらえること。

四五・縁の下の力持ち
　他人のために、見えないところで努力すること。

四六・大風呂敷を広げる
　実際にはできないような、大きなほらをふくことをいう。

四七・陸に上がった河童
　河童は水の中では思う存分活動できるが、陸上では無力だとされる。そこから環境が変わったり、得手とする仕事などから離れたりして能力が発揮できなくなった人のたとえ。

四八・屋上、屋を架す
　屋根の上にさらに屋根を架けるという意味で、無駄なことをすることのたとえ。

四九・奥歯に物がはさまる
　すっかり心が打ち解けないで、なんとなく心にへだたりが感じられること。

五〇・驕る平家は久しからず
　おごりを極める者は、長く栄えることなく亡びる。

五一・鬼の霍乱
　鬼のように丈夫で、ふだんは病気に縁のない人が珍しく病気にかかること。

五二・帯に短し襷に長し
　帯には短くて使えないし、といって襷には長すぎて邪魔になる。そこから、中途半端で役に立たないもののたとえ。

五三・溺るる者は藁をも掴む
　困ったときには、頼みにならない物にも頼る。

五四・思い立ったが吉日
　何かをやろうと思い立ったら、すぐ始めるとよい。

五五・親の意見と茄子の花は千に一つも仇はない
　茄子の花は、必ずといっていいほど実になる。それと同じで、親が子にする意見には無駄がないので、よく聞くべきだということ。

五六．親の光は七光り
　親の威光の大きいこと。子は、親の威光によって世間からいろいろな恩恵を受ける。

五七．飼い犬に手を噛まれる
　なついていたはずの飼い犬から手を噛まれるという意味。信じていた部下や目を掛けていた者に裏切られ、恩を仇で返されることのたとえ。

五八．隗より始めよ
　何事も手近なところから手をつけるべきだということ。また、まず言い出した人が実行すべきだということ。

五九．蛙の面に水
　どんなしうちに会わされてもいっこうに平気で、少しも感じないことのたとえ。

六〇．稼ぐに追い付く貧乏なし
　いつも精出して一生懸命働いていれば貧しい生活で苦しむことはないという意味。

六一．頭が動かねば尾が動かぬ
　人の上に立つ者が先頭に立って活動しないと、下の者は働かないこと。

六二．刀折れ矢尽きる
　力がつきて、戦う方法がなくなることのたとえ。

六三．火中の栗を拾う
　他人のために、あえて危険を冒すことのたとえ。自分の利益にもならないのに、もめごとに頭をつっこんだりすること。

六四．勝って甲の緒を締めよ
　戦いに勝っても油断してはいけない。成功しても心を許さないで、用心深く事を進めよ。

六五．河童の川流れ
　泳ぎの達者な河童も、時には川の水に押し流される。名人上手であっても失敗することがあるという意味。

六六．瓜田に履を納れず
　瓜畑で脱げた靴を履こうとかがめば瓜を盗んでいるかと疑われる。疑いを招く行為は慎めという戒め。

六七．蟹の横這い
蟹が横に歩く歩き方のことで、はたから見れば不自由なようであるが、本人にはそのほうが楽であることのたとえ。

六八．禍福は糾える縄の如し
災厄と幸運とは縒り合わせた縄のように表裏一体をなしていて、代わる代わるやってくるものだということ。

六九．果報は寝て待て
人間の運は、人の力ではどうにもならないものであるから、あせらずに時機を待つがよい。

七〇．亀の甲より年の功
年をとった人の経験は貴いものだということ。

七一．鴨がねぎを背負ってくる
鴨の肉にネギまでついて、すぐにカモなべが食えるというように、うまいことが重なって、好都合なこと。

七二．痒い所に手の届く
細かいところにまで気がついて行き届くのをいう。

七三．烏の行水
入浴がとても速くて、あっさりとしていること。

七四．借りて来た猫
おとなしすぎて、口をきかないこと。

七五．枯れ木も山の賑わい
枯れ木も、山の風情をそえるのに役立つ。つまらないものでも、無いよりはましだということ。

七六．可愛い子には旅をさせよ
愛する子には、旅のつらい思いを経験させて、世の中のほんとうのことを知らせることが、最もよい教育である。

七七．可愛さ余って憎さ百倍
かわいいと思う心が強かっただけに、いったん憎いとなったら、その憎しみの心はひととおりではない。

七八・川向かいの火事
　自分には直接何の関係もない災害のたとえ。

七九・考える葦（あし）
　人間のこと。

八〇・肝胆（かんたん）相照らす
　互いに真心を打ち明けて理解し合い、親しく交わること。

八一・艱難（かんなん）汝を玉にす
　困難や苦労を重ねることによってこそ、人間は大成されるという意味。

八二・聞くは一時（いっとき）の恥（はじ）聞かぬは一生の恥
　知らぬことを人に聞くのは恥ずかしいにしても、その場限りですむ。しかし、聞かないでいれば、知らないために一生恥ずかしい思いをすることになる。知らないことは、積極的に質問せよという意味。

八三・雉（きじ）も鳴かずば撃（う）たれまい
　雉も鳴かなければ居場所が知られずに鉄砲に撃たれずにすんだろうということで、言わなくてもよいことを言ったために災難を受けるたとえ。

八四・机上（きじょう）の空論
　頭の中だけで考えた、実際の役には立たない理論や計画、意見のこと。

八五・気違（きちが）いに刃物
　何をしでかすかわからない。非常に危険なことのたとえ。

八六・木で鼻をくくる
　ひどく無愛想で、冷淡な態度を示すこと。

八七・木に竹をつぐ
　木に竹を接ぐというようなことはできないことであるから、不調和なものを無理に結びつけること、前後のつり合いが悪いこと。

八八・九死に一生を得る
　九分どおり助からない命を、かろうじて助かること。

八九・窮鼠（きゅうそ）却（かえ）って猫を噛（か）む
　追い詰められた鼠は猫にさえ噛みつく。絶体絶命の立場に立たされると、弱いものでも強い相手に反撃して勝つということ。

九〇．清水の舞台から飛び下りる
清水寺は本堂の前の懸崖に舞台を張り出しているが、そこから飛び下りる思いで非常な決意をするということ。思い切った高額の買物や成否の不明な決断をするときに使う。

九一．漁夫の利
互いに利益を争ってるうちに、第三者にまんまと利益を横取りされてしまうこと。

九二．木を見て森を見ず
一部分を見て全体を忘れることのたとえ。部分にこだわって、全体を見失うこと。

九三．金時の火事見舞い
顔の赤い金時が火事見舞いに行けば熱気でさらに赤くなることから、酒に酔って真っ赤になったことのたとえ。

九四．苦あれば楽あり楽あれば苦あり
苦労をすれば楽がまわってき、楽をすれば苦労がまわってくるということで、人の世の中は、苦も楽もかべ一重の違いである。

九五．臭い物に蓋
臭い物に蓋をして、匂いが出ないように一時凌ぎをするように、悪いことやみっともないことが他に知れないように、一時おさえるための手をうつことのたとえ。

九六．腐っても鯛
もともとよい物は、たとえいたんでも、それだけの値打ちがあることのたとえ。

九七．口は禍の門
何気なく言ったことから災難が身に振りかかる例が多いので言葉を謹めということ。

九八．国破れて山河在り
戦乱が続いて国家は元の姿を失ってしまったが、自然の山河だけは依然として昔のままに残っているという意味。

九九．蜘蛛の子を散らすよう
蜘蛛の子の入った袋が破れると小さな蜘蛛がさっと四方に散ってゆくが、大勢の人が一度に逃げ出すのをそれにたとえたことば。

一〇〇．暗がりから牛
黒い牛が暗がりからのっそりと出てきても形がはっきりしない。そこから、物事がはっきりせず、区別のつきにくいことのたとえ。また、ぐずぐずしていて、はきはきしないことのたとえ。

一〇一．苦しいときの神頼み
普段は神を拝まない者が、困ったときや災難にあった時には、神や仏に祈って助けをかりようとすること。

一〇二．車の両輪（りょうりん）
二つのうち、どちらか一方も、取り去ることのできないような密接な関係にあることのたとえ。

一〇三．来る者は拒まず、去るものは追わず
自分の所に来たいというものは誰でも受け入れて拒絶しないで、自分の許から去って行こうとする者は決して引き止めないということ。

一〇四．君子危うきに近寄らず
教養や徳を備えた人格者である君子は、思慮深いので危険に不用意に近づいて災難を招いたりしないものだという意味。

一〇五．君子は豹変（ひょうへん）す
教養があって徳の高い人は、自分が過ちを犯したと知った時は、即座にはっきりと改めるということ。現在は態度を急変する意味にも使われる。

一〇六．鶏口（けいこう）と為（な）るも牛後（ぎゅうご）と為る勿（なか）れ
小さな組織の長になって支配するほうが、大きな組織の末端で支配されるよりましだということ。

一〇七．芸は身を助ける
何かの芸を身につけておくと、万一の場合にそれが生計を立てるのに役立つことがあるという意味。

一〇八．怪我の功名
やり損ないが、かえって手柄になること。また、何気なくやったことで思いがけなく手柄を立てること。

一〇九．下駄（げた）を預ける
うまく処理してくれと、無理を承知でおしつけ、まかせたような形をとること。

一一〇．犬猿の仲
　犬と猿とは仲が悪いということから、仲の悪い間柄。

一一一．けんか両成敗
　けんかをした者は、どちらが良くて、どちらが悪いときでも、両方に罪があるとして、両方をばっすること。

一一二．健全なる精神は健全なる身体に宿る
　からだが健康なら、自然に精神も健全になるものである。からだの不健康な者に、健全な精神の持ち主はない。

一一三．光陰矢の如し
　飛び立った矢のように月日は素早く去って行って戻らないということ。

一一四．後悔先に立たず
　事が終わってから悔やむのが人の常だが、いくら後悔してみても取り返しがつかないということ。

一一五．好事魔多し
　良いこと、あるいはうまく運びそうなことには、とかく邪魔が入りやすいという意味。

一一六．好事門を出でず悪事千里を走る
　善行についての評判は、とかく世間に伝わらないものであるが、悪い評判はたちまち遠方までひろがるということ。

一一七．郷に入っては郷に従う
　人は住んでいる土地の風俗や習慣に従った生活をするのが、上手に世間を渡るやり方であるということ。

一一八．弘法にも筆の誤り
　名筆家の代表とされる弘法大師でも、時には書き誤りがあるということで、名人上手でも失敗するたとえ。

一一九．弘法は筆を択ばず
　書の名人であった弘法大師は、どんな悪い筆を用いても立派な字を書いたということで、物事に巧みな人は道具などに文句をつけないというたとえ。

一二〇．紺屋の白袴
　人の物を紺に染める紺屋が、自分の袴を染めるひまがなく、白い袴のままではくということから、他人のためにばかり忙しくて、自分のことをかまうひまがないたとえ。

一二一．氷は水より出でて水より寒し
弟子が先生より勝ることのたとえ。

一二二．故郷に錦を飾る
故郷を離れていた人が立身出世をして、立派な衣服を着、晴れがましい思いで帰郷すること。

一二三．虎穴（こけつ）に入らずんば虎子（こじ）を得ず
虎の子を捕らえるには虎のいる洞穴に入らなければならないように、危険を冒さなければ大きな利益や成功は得られないということ。

一二四．五十歩百歩
五十歩逃げた者と百歩逃げた者とでは逃げたという意味では同じということから、少しの違いはあっても、本質的には同じことをいう。

一二五．転ばぬ先の杖（つえ）
つまづいて転ばぬように、前もって杖を突いて歩くということからあらかじめ失敗を防ぐための準備をしたり、用心したりしておくべきだというたとえ。

一二六．子を持って知る親の恩
自分が親になって、はじめて親の心遣いのありがたさがわかる。

一二七．塞翁（さいおう）が馬
人生では何が幸せになるか、何が不幸せになるかわからないというたとえ。

一二八．歳月（さいげつ）人を待たず
年月は人の都合などに関係なく、どんどん過ぎ去っていき、少しも待ってくれない。だから、今という時を大切にして勉強せよということ。

一二九．竿竹（さおだけ）で星を打つ
竹のさおで星をたたきおとすということで、不可能なことをやろうとするおろかさをいう。

一三〇．酒屋へ三里豆腐屋へ二里
酒屋へ行くのに三里、豆腐屋へ行くのに二里も距離があるという意味で、田舎の不便な土地のたとえ。

一三一．先んずれば人を制す
人より先にやれば、相手を抑えることができるから、有利である。

一三二．酒は百薬の長
適度に飲むならば、酒はどんな薬よりも健康を保つ効き目があるということ。

一三三．雑魚の魚交じり
つまらぬ小魚が大きな魚の仲間に入っているということで、力、能力、地位などで取るに足らぬ小物が大物の中に交じっているたとえ。

一三四．さじを投げる
医者が、病人を治す見込みがなくなって、薬を調合するさじを投げ出すということで、物事の成功する見込みが無く、あきらめることをいう。

一三五．砂上の楼閣
砂の上に建てられた高い建物は容易に倒壊するところから、基礎がしっかりしていなくてすぐに崩れてしまいそうなもののたとえ。また、実現が不可能なことのたとえ。

一三六．猿も木から落ちる
木登りの得意な猿でも時には木から落ちることがあるというわけで、その道に長じた名人でも時には失敗するというたとえ。

一三七．去る者は日々に疎し
死んだ者は日がたつにつれて人々から忘れられていくということ。また、親しかった者も遠く離れると疎遠になるという意味。

一三八．触らぬ神に祟りなし
何事も、かかわり合いを持たなければ、わざわいを受けることはないということ。

一三九．三顧の礼
仕事を引き受けて欲しい時、またはある地位について欲しい時に、相手の人を何度も訪問したりして礼をつくして頼むこと。

一四〇．三十六計逃げるに如かず
兵法には三十六種の計略があるが、それよりも不利な時には逃げ出すのが最良の策だということ。

一四一．山椒は小粒でもぴりりと辛い

山椒の実は小さくて辛い。そこから、体が小さくても激しい気性を持ち、能力的にも優れていて侮りがたい人間のたとえ。

一四二．三人寄れば文殊の知恵

一人では平凡な考えしか浮かばなくても、三人がいっしょになって相談すれば文殊菩薩ほどの知恵が出てくるということ。

一四三．四角な座敷を丸く掃く

四隅の塵や埃はかまわずに座敷の真ん中だけを丸く掃くように、細かな所は手抜きをして、いいかげんな仕事をすること。横着をきめこんだ、ごまかし仕事。

一四四．地獄で仏

鬼ばかりがいる恐ろしい地獄で苦しめられているときに、情深い仏様にたまたま出会って助けてもらったようだということで非常な困難や危難に対して思いがけない助けを得て喜ぶたとえ。

一四五．地獄の沙汰も金次第

罪人を厳しく裁く地獄の裁判でも金を出せば手加減してもらえるということで、金の力は万能であるというたとえ。

一四六．獅子身中の虫

獅子の体に寄生して害を与える虫のこと。仏教徒でありながら仏法にあだなす行為をする者のたとえ。さらに、組織などの内部にいて、その組織に災いを起こす者をいう。

一四七．事実は小説よりも奇なり

この世に起こる出来事は、作り話の小説よりももっと不思議なめぐり合わせや複雑な変化に富んでいる。

一四八．釈迦に説法孔子に悟道

釈迦に仏法を説いたり、孔子に道徳を説いたりすることで、よく知らないことを優れた専門家に教える愚かさのたとえ。

一四九．蛇の道は蛇

大蛇の通り道は普通の蛇にもわかるという意味で、同類の者のすることは同類の者によくわかるたとえ。さらにその道の専門家はその道のことに詳しいたとえ。

一五〇．重箱の隅を楊子でほじくる
　どうでもよいようなつまらない事までほじくり出して、こまごまと口出しすること。

一五一．朱に交われば赤くなる
　朱の中に入れた物が赤くなることから、人は交わる友によって善にも悪にも感化されるというたとえ。

一五二．春秋に富む
　歳月を豊富に持っているということで、年が若く、将来があることをいう。

一五三．小異を捨てて大同につく
　意見の違いが多少あることは無視して、大勢が支持する大局的な意見に従うこと。

一五四．上手の手から水が漏る
　どんな上手な人でも、失敗することがあるということのたとえ。上手な人がたまたま失敗した時などにいう。

一五五．小の虫を殺して大の虫を活かす
　一部分を犠牲にして、全体を生かすことのたとえ。

一五六．焦眉の急
　眉毛が焦げるほど火が近づいているということで、事態がきわめて急迫していることのたとえ。

一五七．少年老い易く学成り難し
　月日のたつのは早く、年若い者もすぐに年をとってしまうが学問のほうは成就しにくい。若いうちに時間を無駄にしないで勉強すべきことをいう。

一五八．将を射んとせば先ず馬を射よ
　敵将を討ち取ろうと思ったら、まずその敵将の乗っている馬を射倒せということで、目標に直接ぶつからずに周囲から攻略するほうが効果的だという意味。

一五九．知らぬが仏
　知ると腹も立つけれども、知らなければ、そのまま平気でいられるということ。

一六〇．白羽の矢が立つ
　大勢の中から、よい目的であっても、悪い目的であっても、特に選び出されること。

一六一．人口に膾炙す
おいしい料理が万人に好まれるように、広く世間の話題になりもてはやされること。

一六二．人事を尽くして天命を待つ
全力を出し尽くしてやれるだけのことはやったのだから、結果がどうあろうと天の意志にまかせるしかないという心境をいったもの。

一六三．死んだ子の年を数える
あの子が今生きていればいくつになっているのにと年を数えること。かえらない過去のぐちをいうこと。

一六四．心頭を滅却すれば火も亦涼し
何事も心にとめないような無念無想の境地にあれば、火でも涼しく感じられるということで、心の持ち方で苦痛も覚えないという意味。

一六五．水魚の交わり
水と魚は切っても切れない関係にあるように、きわめて親密な友情や交際のたとえ。

一六六．水泡に帰す
あっけなく消え失せてしまう水の泡のようになるという意味で、それまでの努力や苦労がすべて無駄になることのたとえ。

一六七．末は野となれ山となれ
あとはどうなってもかまわない、どうにでもなれということ。

一六八．好きこそものの上手なれ
好きでやることは、上達しやすい。

一六九．過ぎたるは猶及ばざるが如し
何事においても度を過ぎたことはよくないことで、少し足りないのと同じようなものだという意味。過不足のない中庸がよいということ。

一七〇．雀百まで踊り忘れぬ
雀は死ぬまで飛び跳ねるくせがぬけないということから、人間も幼い時代の習慣は改まりにくいものであるということ。年をとっても道楽のくせが直らないのに多く使う。

一七一．捨てる神あれば拾う神あり
　自分を見捨てる神がある一方で、助けてくれる神もある。同じように、世間でも自分を相手にしない人がいるかと思うと、面倒を見てくれる人もいる。くよくよしなくてもいいということ。

一七二．寸鉄人を刺す
　短く要を得た言葉で、人の急所をつく。

一七三．精神一到何事か成らざん
　精神を集中させれば、どんな事でもできないものはない、という意味。

一七四．清濁併せて呑む
　清い流れも濁った流れも同じように呑み込む大海のように、善人であろうと悪人であろうと分け隔てなく受け入れること。包容力があることのたとえ。

一七五．青天の霹靂
　青く晴れ渡った空に不意に起こった雷鳴のことで、思いがけない突発的な事件、衝撃的な出来事のたとえ。

一七六．狭き門より入れ
　楽な方法をとるより、難しく苦しい方法をとるほうが、立派な人間になれる。

一七七．船頭多くして船山へ上る
　船頭が多くいて、それぞれがまちまちな指図をすると、船が山へ上るようなとんでもないことが起こりかねない。指図する者が何人もいて方針の統一がとれず、物事がうまく進行しないたとえ。

一七八．千万人と雖も吾往かん
　自分の考えや行動が正しいと確信したら、敵が千万人いたとしても恐れずに立ち向かっていこうという意味。

一七九．前門の虎後門の狼
　表門で虎を防いだが、裏門にはすでに狼がまわっていることで、やっと一つのわざわいを逃れたと思ったらまた新しいわざわいにあうこと。

一八〇．糟糠の妻
　貧しく粗末な食事しかとれないころから苦労を共にしてきた妻。

一八一．袖振り合うも他生の縁
　路上で見知らぬ人と袖を触れ合わせるのも前世からの因縁であり、ささいな出来事もすべて偶然ではないということ。

一八二．備え有れば憂い無し
いつも準備を怠らない者は、もし万一の事が起こっても、少しも心配することはない。

一八三．太鼓判を捺す
太鼓ほどもある判を捺して保証するということ。絶対に間違いのないことを保証するたとえ。

一八四．対岸の火災
向こう岸の火事は、こちらに燃えてくる心配がなく安心していられるということで、自分にとっては痛くも痒くも感じないこと。

一八五．大山鳴動して鼠一匹
噴火でもするように大きな山が鳴り動いたのに、鼠が一匹出て来ただけだったという意味で、大騒ぎしたわりには実際の結果が小さいことのたとえ。

一八六．高嶺の花
高い山の頂上に咲いている美しい花は、いくら欲しくても手に入れることができない。遠くからあこがれているだけで、自分の力では得られないもののたとえ。

一八七．多芸は無芸
いろいろなことができる人は、これが専門といえるような特に優れた面が一つもないこと。

一八八．他山の石
他の山の粗悪な石でも自分が所有する玉を磨くのに利用できるということで、直接関係のない人の言動が自分にとっての戒めになるという意味。

一八九．多勢に無勢
少人数では、大人数に立ち向かっても、結局は負けてしまうこと。

一九〇．たたけばほこりが出る
どんな人でも、探し出せば欠点や弱点が出てくるものである。

一九一．畳の上のけが
最も安全な場所と思われる畳の上でもけがをすることがあるということから、けがはどこでするかわからないということ。

一九二．立つ鳥、跡を濁さず

水鳥は飛び立っても水を濁さないということから、人も立ち去るときはきちんと後始末をしておくべきだということ。

一九三．立て板に水

立てかけてある板に水をかけて流すように、流れによどみがなく、すらすらと口がうまいことのたとえ。

一九四．蓼食う虫も好き好き

辛い蓼を好んで食べる虫があるように、人の好みはさまざまであるということ。

一九五．伊達の薄着

おしゃれな人は着ぶくれして不格好になるのを嫌い、寒い冬の日でも薄着でとおすということ。

一九六．棚からぼた餅

棚の下でのんびり寝ていたらたまたまぼた餅が落ちてくるということから、思いがけない幸運が舞い込んでくることのたとえ。

一九七．掌を返す

てのひらをくるりと裏返すことで、物事が容易にできることのたとえ。また、人の心や態度が急変することのたとえ。

一九八．玉磨かざれば光なし

玉は原石を磨きあげることによって、はじめて宝器となる。人も素質や才能があるだけでは駄目で、学問や修養で自己錬磨しなければ有用な人物にはなれないというたとえ。

一九九．竹馬の友

幼いころ、竹馬に乗って遊んだ仲のよい友人のこと。幼なじみ。

二〇〇．塵も積もれば山となる

少しのものでも、つもりつもれば大きなものになるから、小さなことだといっておろそかにしてはいけないことのたとえ。

二〇一．月に叢雲花に風

せっかくの名月は群がる雲に隠され、桜の花が満開になれば風が散らす。よいことにはじゃまが入りやすく、思うようにいかないものだというたとえ。

二〇二．角を矯めて牛を殺す
　少しの欠点を直そうとして、かえって全体をだめにしてしまうこと。

二〇三．罪を憎んで人を憎まず
　犯した罪は許すべきではなく罪として憎まなくてはならないが、罪を犯した人間そのものを憎んではいけないということ。

二〇四．爪に火を点す
　ひどくけちなこと。倹約して、質素な生活を送ること。

二〇五．爪の垢を煎じて飲む
　特別に優れた人に、少しでもあやかろうとつとめること。

二〇六．鶴の一声
　小さな鳥が群がって鳴き騒ぐよりも、鶴が一声鳴くほうが威厳があって優れているという意味で、大勢で議論してまとまらなかったことが実力者の一言で決まることのたとえ。

二〇七．敵に塩を送る
　何かで敵対関係にある相手が別のことで苦しんでいる場合、その弱点につけこまずにかえって援助すること。

二〇八．敵は本能寺にあり
　行動を起こすときに本当の目的は表面に掲げたものではなく、別にあるということ。

二〇九．鉄は熱いうちに打て
　硬い鉄も熱して柔らかい状態の時はいろいろな形に作り上げることができる。そこから、人も若いうちに鍛錬すべきだというたとえ。

二一〇．出る杭は打たれる
　頭角をあらわす者は、ほかから憎まれたり妨げられること。出過ぎたふるまいをする者は嫌われて、制裁を受けること。

二一一．天井から目薬
　まわりくどいことのたとえ。または、きめのないたとえ。

二一二．天に唾す
　天に向かって唾を吐くと、それが自分の顔にかかってくるということから、他人に危害や損害を与えようとして、かえって自分がひどい目にあうたとえ。

二一三．天は自ら助くる者を助く
天、あるいは神は、他人の助力を頼みとせず、自分自身で努力する者に力を貸してくれるということ。

二一四．頭角を現す
人々の中で頭の先が高く抜き出て目立つという意味から、才能や学識が群を抜いて優れること。

二一五．灯台下暗し
周囲を明るく照らす燭台も、そのすぐ下は陰になり暗いということ。身近なことには案外気づかないでいることのたとえ。

二一六．豆腐に鍼
柔らかな豆腐に鍼を打ち込んでも崩れてしまってどうしようもないことから、意見をしてもまったく手答えがなく、効き目がないたとえ。

二一七．時は金なり
時間は非常に貴重で、金銭と同じようなものだということ。時間を無駄使いするなという戒め。

二一八．読書百遍義自ら見る
難しいと思われる書物でも、何度も繰り返して読めば内容が自然に理解できるということ。

二一九．得を取るより名を取れ
金を儲けるといったような実利よりも名誉や名声のほうを重視すべきだという考え。

二二〇．毒を以て毒を制す
毒にあたった病人の治療に毒薬を用いること。悪人を除くのに別の悪人を利用するたとえ。

二二一．床の間の置物
地位だけは高くて、それにふさわしい実権のないこと。

二二二．年寄りの冷水
老人が、年に似合わず元気の良いことで、老人が無理をするのをひやかしたり、いましめたりするときにいう。

二一三．鳶が鷹を生む
平凡な親がすぐれた子供を生むたとえ。

二一四．鳶に油揚をさらわれる
自分が手に入れようとしている物を、突然横から取られることで、意外なことに呆然とすること。うっかりしていて馬鹿をみること。

二一五．捕らぬ狸の皮算用
まだ手に入らないうちから期待をかけて、計画を立てること。

二一六．虎の威を借る狐
自分は弱いのに、強者の権勢をかさにきて威張ること。

二一七．虎の尾を踏む
強暴な虎の尾を踏めば、怒った虎にかみ殺されてしまう。そこから、非常に危険なこと、無謀なことをするたとえ。

二一八．虎は千里行って千里帰る
虎は一日に千里も行って、またその千里を戻って来る。勢いの盛んなことのたとえ。さらに、子を思って帰るという意味から、親の子に対する情愛の深さをたとえる。

二一九．団栗の背競べ
団栗はどれもほとんど同じような形と大きさをしている。その団栗が背競べをしても優劣は決め難いことから、どれもこれも平凡で、抜きん出たものがないたとえ。

二二〇．飛んで火に入る夏の虫
自分から進んで、災いや危険なことに飛び込むこと。

二二一．無い袖は振れぬ
実際にない物はどうしようもないということ。金銭的に援助をしたいができないといった場合によく使う。

二二二．泣いて馬謖を斬る
規律や秩序を守るためには、処罰などの面で私情をさしはさまないということ。

二二三．長い者には巻かれろ
手におえないほど長い物には、抵抗しても仕方がないから巻かれるままになっていたほうがいいということで、権力や勢力の大きい物に対してはおとなしく従ったほうが得策だという意味。

二三四．流れに棹さす
流れに乗って走る船に棹でさらに勢いをつける意味で、好都合なことが重なって物事が順調に運ぶたとえ。

二三五．泣き面に蜂
不幸や苦しみの上に、さらに悪いことが重なること。

二三六．泣く子と地頭には勝てぬ
泣きわめく子供と横暴な地頭には勝てる見込みがないので、言うことを通してやる以外にないということ。権力のある者には従わざるを得ないということのたとえ。

二三七．鳴くまで待とう時鳥
好機が到来するまで辛抱強く待つということ。

二三八．情けが仇
相手に対する好意、または同情心からしてやったことが、かえって悪い結果を招くこと。

二三九．情けは人の為ならず
人は情けをかけておけば、巡り巡って自分によい報いが返ってくるということ。

二四〇．七転び八起き
七回転んでも八回起きるということで、転んだままではいないという意味。そこから、何回失敗してもあきらめずにがんばるたとえ。

二四一．生兵法は大怪我のもと
剣法をはじめとする武道を生かじりしていると、それに頼って大怪我をするということで、身についていない知識や技術によって事を行うと失敗するというたとえ。

二四二．ならぬ堪忍するが堪忍
これ以上は我慢ができないところをじっと我慢するのが、本当の意味の我慢だという意味。

二四三．憎まれっ子世に憚る
世間から嫌われ、憎まれている者にかぎって世渡りが巧みで、幅を利かせているということ。

二四四．煮え湯を飲まされる
信用して気を許している者に、裏切られてひどい目にあう。

二四五．二階から目薬
二階から階下の人の目に目薬をさしてやることは、なかなかうまくいかないものである。このことから、思う様にいかなくてもどかしいたとえ。また、遠回りで直接きき目のないことのたとえ。

二四六．二兎を追う者は一兎をも得ず
二羽の兎を同時に捕らえようとする人は、一羽も捕らえることができないということで、同時に二つの物事をしようとすれば、どちらもうまくいかないということのたとえ。

二四七．二の足を踏む
もう一歩踏み出すことをためらう意味で、物事をする決心がつかず、尻込みすることのたとえ。

二四八．二の句が継げぬ
次の言葉が出てこないという意味で、驚いたりあきれたりして何も言えなくなること。

二四九．二の矢がつげぬ
もう一度やる力がない。

二五〇．二枚舌を使う
まるで舌を二枚持っているかのように、一つの物事を二通りに言うということから、うそをつくたとえ。

二五一．人間到る処青山あり
この広い世の中には、どこに行っても自分の骨を埋める場所くらいはある。だから、故郷にしがみついているのではなく、大志を抱いて雄飛せよという意味。

二五二．糠に釘
あたかも糠の中に釘を打つように手応えがなく、何の効き目もないことのたとえ。意見しても聞き流している場合などに使う。

二五三．盗人にも三分の理
盗人が盗みを働くにも、それなりの理屈があるということ。どんなことでも、理屈がこじつけられるたとえ。

二五四．濡れ衣を着せられる
　無実の罪を負わされること。

二五五．濡れ手に粟
　苦労をしないで利益を得ること。

二五六．猫に鰹節
　好物をそばに置いたのでは、油断ができないことのたとえ。間違いを起こしやすい状態。

二五七．猫に小判
　貴重なものでも、価値のわからない者に与えては何の役にも立たないこと。

二五八．猫の額ほど
　面積のせまい土地の形容。

二五九．寝耳に水
　寝ている時に冷たい水が耳に入ったということで、思いがけない知らせや出来事にひどく驚くたとえ。

二六〇．年貢の納め時
　時期がきて年貢を納めなければならないという意味で、積み重ねてきた悪事に対する処罰を受ける時がきたことのたとえ。

二六一．能ある鷹は爪を隠す
　鋭い爪を持つ鷹は必要な時以外はいつも隠くしていることから、優れた才能や実力を持つ者はみだりにそれをひけらかしたりしないというたとえ。

二六二．喉元過ぎれば熱さを忘れる
　熱い食物でも喉のあたりを過ぎれば、熱かったことなど忘れてしまう。そこから、苦しい経験も過ぎてしまえば忘れること、懲りたことでもすぐ忘れて繰り返すこと、人に助けてもらった恩を忘れることなどのたとえ。

二六三．暖簾に腕押し
　手ごたえがなく、張り合いのないこと。

二六四．敗軍の将は兵を語らず
　戦争に敗れた将軍はその戦いについてあれこれ言うべきでないし、兵法についての理論などを説く資格もないという意味。失敗した者は沈黙すべきだというたとえ。

二六五．背水の陣

背後に川などがあると後退できないので、軍勢は必死で戦う。同じように一歩も退けない覚悟で、全力を尽くして事に当たること。

二六六．馬鹿と鋏は使いよう

鋏は、使い方によって切れるように、馬鹿でも使い方によって役に立つ。人を使うには、上手下手の差が大きい。

二六七．馬鹿の一つ覚え

愚かな者は何か一つのことを覚えると、得意になってそのことばかり言う。そこからいつも同じことを言ったり、したりして発展性のない人を嘲笑することば。

二六八．謀は密なるを貴ぶ

計略は外部に漏れないように、しっかりと秘密を守ってこそ成功するということ。

二六九．馬脚を露す

隠していたことが明らかになり、本性がでる。

二七〇．箸にも棒にもかからぬ

どうにもこうにも手のほどこしようがなくて取り扱いに困ること。

二七一．鳩に豆鉄砲

突然のことに驚いて目を丸くし、頬を膨らますのをいう。きょとんとするさま。

二七二．歯に衣着せぬ

言葉を飾ったりせず、思ったことや言いたいことをずばりと遠慮なく言うこと。

二七三．腹八分目に医者要らず

暴飲暴食はもちろんいけないが、さらに満腹も避けたほうがよいという意味。満腹の一歩手前の八分目にしておれば胃に負担がかからず、健康が保てることになる。

二七四．腹も身の内

腹も自分の体の一部なのだから、暴飲暴食によって痛めつけず、いたわってやるべきだということ。

二七五．針の筵

まるで針を植えた筵に座らされているように、いたたまれない気持ちをいうことば。不面目なことをしでかして、自責の念に駆られながら人の前にいる状態のときなどに使う。

二七六．ひいきの引き倒し
　ひいきをしすぎて、かえってその人を不利な目にあわせること。

二七七．日暮れて途遠し
　日は暮れてしまったのに目的地までの道のりはまだかなりあるということで、やりたいことや仕事が沢山残っているたとえ。

二七八．庇を貸して母屋を取られる
　軒先だけと思って貸したのに建物まで占拠されるということで、一部を貸したために全体を取られるたとえ。好意につけ込まれてひどい目にあうこと。

二七九．左団扇
　左手で団扇を使いながら気楽に毎日を送るということで、生活の苦労がなく、のんきに暮すたとえ。

二八〇．一筋縄ではいかぬ
　一本の縄では縛っておけず何本も必要ということから、一癖も二癖もある人物、あるいは面倒な物事のたとえ。

二八一．人の噂も七十五日
　あることについて人が噂話をするのはせいぜい七十五日くらいのものだから、悪い噂を立てられても気にするなという意味。

二八二．人の口には戸は立てられぬ
　他人の口を戸でふさぐことができないように、人々が勝手に流す噂話はどうすることもできないということ。

二八三．人の褌で相撲を取る
　自分の褌は使わずに他人のを使って相撲を取るということから、他人の物や立場などを利用して、自分の目的を成し遂げるたとえ。

二八四．火のない所に煙は立たぬ
　火があるからこそ煙が立つということから、どんな噂にもその原因となる事実があるはずだという意味。悪い噂の時によく使う。

二八五．百日の説法屁一つ
　百日間もありがたい仏法を説いてきた僧が最期におならをしたためにぶちこわしになったということで、長い間の苦労がちょっとした失敗で無駄になるたとえ。

二八六．百聞は一見に如かず
幾度も繰り返し聞くよりも、一度でも実際に自分の目で見たほうが確実であること。

二八七．百里を行く者は九十里を半ばとす
何事も終わりに近づくと困難になるから、九分ぐらいのところを半分と考えて、最期まで気を緩めず努力せよということ。

二八八．氷山の一角
海面上に現われている氷山は全体のほんの一部にすぎず、水面下の部分のほうがはるかに大きい。そこから、社会的な現象や事件などが部分的に現われ、背後にはもっと大きい部分が隠されているというたとえ。

二八九．瓢箪から駒が出る
瓢箪の中から馬が飛びだすことで、思いもよらないことが起こるたとえ。さらに冗談で言ったことが事実になってしまうたとえ。

二九〇．貧者の一灯
寄進や寄付は金持ちの虚栄心による多額なものより、貧しい人の真心のこもった少額なもののほうが尊いということ。

二九一．貧すれば鈍する
貧しくなると生活に追われて、才知のあった人でもそれが発揮できなくなるということ。愚鈍になるだけではなく、さもしくなったり、道徳意識まで低下するという意味もある。

二九二．風前の灯火
風が吹きつけて、いまにも消えそうになっている灯火の意味で、非常な危険が差し迫っていることのたとえ。

二九三．笛吹けど踊らず
踊ってもらおうと思って笛を吹くのに応じる者がいないという意味で、すっかりおぜん立てをして行動を促しても乗ってこないことのたとえ。

二九四．覆水盆に返らず
夫婦は一度別れたら、二度と元には戻らない。一度してしまったことは、取り返しがつかない。

二九五．武士に二言はない
武士道は信義を重んじるので、一度口にした言葉を取り消したり変更したりしないということ。いったん約束したことを守るたとえとして使う。

二九六．武士は食わねど高楊枝（たかようじ）
貧しさのために食事が取れないようなことがあっても、気位を高く保ち食べたふりをして悠然と楊枝を使うという意味。苦しい状況にあっても慌てたり、弱味をさらけ出したりしないたとえ。

二九七．豚に真珠（しんじゅ）
値打ちのわからない者には、どんな宝物をやっても意味がないというたとえ。

二九八．刎頸（ふんけい）の交わり
相手のためであれば首を斬られたとしても悔いはないほどの深い友情に支えられた交際をいう。

二九九．下手（へた）の考え休むに似たり
よい思案の出るはずもない人が考えこむのはやすんでいるのと同じで、時間の無駄だということ。

三〇〇．坊主憎けりゃ袈裟（けさ）まで憎い
その人を大変憎むがあまり、その人に関係のある物すべてが憎いこと。

三〇一．臍（ほぞ）を噛む
自分の臍は噛めないことから、後悔しても及ばないこと。また、どうしようもないと知りながら後悔すること。

三〇二．仏作って魂入れず
物事の最も大切な点をなおざりにすることのたとえ。

三〇三．仏の顔も三度
どんなおだやかでやさしい人でも、何度もひどいことをされれば怒り出すことのたとえ。

三〇四．骨折り損のくたびれ儲（もう）け
骨を折っただけ損をして、得たものは疲労だけだったという意味で、利益や効果をもたらさない無駄な苦労をすること。

三〇五．蒔（ま）かぬ種は生えぬ
何事も、原因があって結果が生じるものだから、何もしないで結果だけを期待しても得られないということ。

三〇六．枕を高くして眠る
安心してゆっくり眠る。まったく心配事のない状態をいう。

三〇七．負けるが勝
　相手に勝ちを譲って、人と争わないのが、大きな目で見れば有利な結果になること。

三〇八．馬子にも衣装
　馬の手綱を取る馬方のような者でも、着飾れば立派に見えるということ。衣装で人品が変わるというたとえ。

三〇九．待てば海路の日和あり
　じっと待っていれば航海によい天候になって船出することができる。今は状況が思わしくなくても、きっと順調にいく機会がめぐってくるのであせらずに待てばよいということ。

三一〇．眉に唾を付ける
　信用できないので、だまされないように用心するたとえ。

三一一．丸い卵も切りようで四角
　同じ内容でも話の仕方によって円満に受け取られることもあれば、険悪な状態になることもある。それを卵の切り方にたとえたことば。

三一二．満を持す
　弓をいっぱいに引きしぼり、そのまま構えている様子で、用意が十分にできて行動に移る時期を待っているたとえ。物事が頂点にまで達して、持ちこたえていることもいう。

三一三．木之伊取りが木之伊になる
　人を連れ戻しに行って連れ戻される立場になったり、説得しようとした者が説得されてしまうことのたとえ。

三一四．身から出た錆
　自分が行った悪事の報いで苦しむこと。

三一五．水清ければ魚棲まず
　あまりに清廉すぎると、かえって人に親しまれなくなることのたとえ。

三一六．水と油
　水と油は混じり合わないことから、気が合わずに打ちとけない間柄のたとえ。また、調和しないことのたとえ。

三一七．三つ子の魂（たましい）百まで
三歳のころに持っていた性質は百歳になっても持っているということで、持って生まれた性質は一生変わらないという意味。

三一八．実るほど頭が下がる稲穂（いなほ）かな
稲の穂は実が入れば入るほど穂先が垂れるが、そのように人も内容が充実した立派な人物ほど謙虚な態度を見せるものだというたとえ。

三一九．身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ
水におぼれかかったとき自分の体を捨てる気になって水にゆだねると、自然に体が浮く。同じように窮地に立たされた場合には、命を捨てる覚悟で事に当たれば打開できるものだということ。

三二〇．胸三寸に納める
言いたいことがあっても心の中にしまいこんで、それを顔色や言葉に出さないということ。

三二一．無用の長物（ちょうぶつ）
あったところで何の役にも立たず、むしろ邪魔にしかならないもののたとえ。

三二二．目明き千人盲（めくら）千人
世の中には、物の分かる人もあれば、分からない人もある。

三二三．目から鼻に抜ける
賢くて、物事の判断などが素早いこと。頭の回転が早く、抜け目のないこと。

三二四．目糞鼻糞（めくそはなくそ）を笑う
目やにが自分の汚いことを棚に上げて鼻糞を汚いとあざ笑う意味で、自分が同じようなものだと気づかないで他人の悪口を言うたとえ。

三二五．盲蛇（めくらへび）に怖（お）じず
そのことの恐ろしさを知らない人は、向こう見ずなことを平気ですること。無知な者は、物怖じしないこと。

三二六．餅（もち）は餅屋
物事にはそれぞれの専門家がおり、素人よりずっとすぐれているものだ。

三二七．元の木阿弥（もくあみ）
一度はよくなったのに、再び悪い状態に戻ること。苦労や努力が無駄になること。

三二八．物いえば唇寒し秋の風
人の短所や自分の長所をあれこれ言うと、後悔して唇に秋風の冷たさを感じるという意味。転じて、余計なことを言えば災いを受けたり、対人関係がまずくなったりしがちだから口は慎めというたとえ。

三二九．桃栗三年柿八年
桃と栗とは、芽生えてから三年で実がなり、柿は八年もかかるということで、何事もそれ相応の年季を入れなければ成果を上げられない。

三三〇．門前の小僧習わぬ経を読む
寺の門前に住んでいる子供はいつも読経を聞いており、特にならわなくても自然に経が読めるようになる。環境の影響や、ふだん接している人の感化が大きいたとえ。

三三一．薬石効なし
さまざまな治療を行ってみたが、一向に効果がなく、病気の回復がはかばかしくないということ。

三三二．焼け石に水
焼けた熱い石に少しの水をかけたところで冷ますことができないように、援助や供給、努力がわずかで効果があがらないことのたとえ。

三三三．薮をつついて蛇を出す
つつく必要のない薮をつついたために蛇が出てきたということで、余計なことをして災いを招くたとえ。

三三四．病膏肓に入る
不治の病になること。病状が悪化し、治る見込がないこと。手のつけようがないほど、物事に熱中すること。

三三五．山高きが故に貴からず
山は高ければいいというものではないということ。人間の値打ちは外見の立派さにはないというたとえ。

三三六．有終の美
最後まで物事をやり遂げて、しかも立派に締めくくること。

三三七．横車を押す
車は前後に動くものだが、それをあえて横に押すということから、強引に無理な道理に合わないことを押し通すたとえ。

三三八・夜目、遠目、笠の内

夜の薄暗い光で見る時、遠くから見る時、かぶった笠で顔の一部が隠れている時には女性の容貌はよくわからず、却って実際より美しく感じるということ。

三三九・寄らば大樹の陰

雨宿りをするにも、暑い日射しを避けるにも、小さな木より大きな木のほうがよいということで、どうせ頼るなら勢力ある人にたよるべきだというたとえ。

三四〇・弱り目に祟り目

それでなくても困っているのに、さらに神仏の祟りまで受けるという意味で、不運の上に不運、災難の上に災難が重なること。

三四一・李下に冠を整さず

すももの木の下で手を上げると実を盗んでいるのではないかと疑われるので、冠が曲がっていても直さないという意味。人から疑われるような行動はするなという戒め。

三四二・両刃の剣

一方では大変役に立つが、別の面では大きな害を与える恐れのあるもののたとえ。

三四三・良薬口に苦し

忠言・忠告は聞きづらいものだが、身のためになる。

三四四・類は友を呼ぶ

性格や考え方、趣味などが共通している者同士は気が合うので、自然に寄り集まって仲間を作るという意味。

三四五・礼も過ぎれば無礼になる

あまり丁寧すぎるのも、かえって相手を侮辱する結果になる。

三四六・ローマは一日にして成らず

強大なローマ帝国も一日で建設されたものではなく、長い年月をかけた努力の結果であるということ。大事業は短期間で完成するものではないというたとえ。

三四七・禍を転じて福と為す

身に受けた災難に耐えるだけでなく、逆に積極的に利用して幸運に変えてしまうということ。

三四八．渡る世間に鬼は無い

世の中には鬼みたいに無情な人ばかりでなく、困った時に助けてくれるような情深い人もいるものだということ。

三四九．和(わ)して同(どう)ぜず

人と争わず仲良くするが、自分の意見をしっかり守っていてむやみに人に同調したりしないという意味。

三五〇．破(わ)れ鍋にとじ蓋(ぶた)

割れた鍋でもそれに似合う修繕した蓋があるという意味でどんな人にもふさわしい配偶者が見つかるというたとえ。また、条件が釣り合った組み合わせがよいという意味。

Ⅳ．医療・健康にかかわる基本用語を覚えなさい。

一．ＩＣＵ　集中治療室。

二．アナフィラキシーショック　外部からアレルゲンが体内に入ることで急激に引き起こされる全身性の強いアレルギー反応のためにショック状態になること。

三．インスリン　膵臓(すいぞう)で作られるホルモンで、血液中のブドウ糖をエネルギーとして利用する際に必要です。この量が足りなくなったり、働きが低下したりすると糖尿病になります。

四．インフォームドコンセント　治療法などについて、医師から十分な説明を受けた上で、患者が正しく理解し納得して、同意することです。

五．ウイルス　細菌より小さく、電子顕微鏡でないと見えない病原体です。抗生剤が効きません。

六．ＡＥＤ（エーイーディー）　自動体外式除細動器。

七．ＭＲＩ（エムアールアイ）　磁気共鳴画像診断装置。強力な磁石でできた筒の中に入り、磁気の力を利用して体の臓器や血管を撮影する検査。

八．ガイドライン　病気になった人に対する治療の実績や、学会での研究をふまえて作られた診療の目安です。

九．ＱＯＬ（クオリティーオブライフ）　不快に感じることを最大限に軽減し、できるだけその人がこれでいいと思えるような生活が送れるようにすることを目指した医療の考え方のことです。

一〇．クリニカルパス　患者さんの退院までの診療内容や治療の進み方を計画表の形にまとめたものです。

一一．グループホーム　認知症の高齢者が少人数のグループ単位で共同生活を送る住居です。専門のスタッフが一緒にいて洗濯や食事などの援助をしてくれます。

一二．コンプライアンス　一般的には「法令厳守」。医療においては、患者が医師の指示通りに適切に服薬すること。

一三．ＣＴ　コンピューター断層投影法。Ｘ線を使って身体の断面を撮影する検査。

一四．ステロイド　炎症を抑えたり，免疫の働きを弱めたりする薬です。人間の体の中（腎臓の上の方にある副腎皮質というところ）でできるホルモンの成分をもとに作られています。

一五．セカンドオピニオン

今かかっている医師（主治医）以外の医師に求める第２の意見

一六．ターミナルケア

終末期医療。

一七．ドナー

献血者や、臓器移植における角膜・腎臓などの提供者、骨髄移植おける骨髄の提供者のこと。

一八．バリアフリー

障害者や高齢者が生活していく際の障害を取り除き、誰もが暮らしやすい社会環境を整備するという考え方のこと。

一九．プライマリーケア

ふだんから近くにいて、どんな病気でもすぐに診てくれ、いつでも相談に乗ってくれる医師による医療のことです。特定の病気だけを診る専門医療とは違って、患者を一人の人間として、総合的に診療する医療のことです。

二〇．ＰＥＴ（ペット）

陽電子放射断層撮影法。がんを検査する方法の一つで、患者さんの苦痛もなく、一度の 検査で全身の小さながんを早期に発見できる。

二一．ホスピス

主に末期がん患者に対して緩和治療や終末期医療（ターミナルケア）を行う施設のこと。

二二．ポリープ

胃や腸の内側にできる、いぼやきのこのような形のできもののことです。良性のものと悪性のものとがあります。

二三．メタボリックシンドローム

内臓に脂肪がたまることにより、様々な病気が引き起こされる状態です。引き起こされる危険がある病気は、高血圧・脂質異常症（高脂血症）・糖尿病などです。また、心筋梗塞や脳梗塞のおそれもあります。

二四．レシピエント

臓器移植手術や骨髄移植手術で臓器の移植を受ける患者。

二五．ワクチン

感染症の予防に用いる医薬品。